

I-O DATA

PCIバス搭載 PC-9821シリーズ対応
Ultra ATAインターフェイスボード

UIDE-98シリーズ

取扱説明書

33283-01

【ご注意】

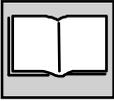
- 1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
- 2) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
- 3) 本製品及び本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、弊社サポートセンターまでご連絡ください。
- 4) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
- 5) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当する場合があります。
国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
- 6) 本サポートソフトウェアの使用にあたっては、バックアップ保有の目的に限り、各1部だけ複写できるものとします。
- 7) 本サポートソフトウェアに含まれる著作権等の知的財産権は、お客様に移転されません。
- 8) 本サポートソフトウェアのソースコードについては、如何なる場合もお客様に開示、使用許諾を致しません。また、ソースコードを解明するために本ソフトウェアを解析し、逆アセンブルや、逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングを禁止します。
- 9) 書面による事前承諾を得ずに、本サポートソフトウェアをタイムシェアリング、リース、レンタル、販売、移転、サブライセンスすることを禁止します。
- 10) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関する設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んだの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意ください。
- 11) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is only suitable for use in Japan. We shall have no liability for any damages arising from the use or inability to use this product in other countries. We neither provide any technical support and/or after-service for the use of this product abroad.)
- 12) お客様は、本サポートソフトウェアを一時に1台のパソコンにおいてのみ使用することができます。
- 13) お客様は、本製品または、その使用权を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
- 14) 弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。

I-O DATAは、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。

Microsoft, Windows, WindowsNT, MS, MS-DOSは、米国 Microsoft Corporationの登録商標です。

その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

このたびは、PCIバス用Ultra ATAインターフェイスボード「UIDE-98シリーズ」(PC-9821シリーズ用)をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。ご使用の前に本書をよくお読みいただき、正しいお取り扱いをお願いします。



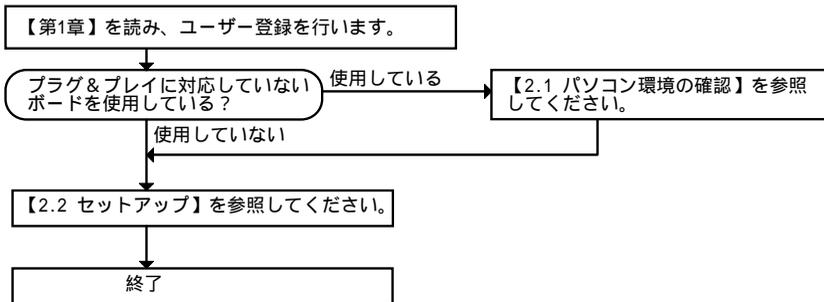
本書をご覧になるにあたって ●

呼び方

呼び方	意味
UIDE-98 シリーズ	UIDE-98M及びUIDE-98の総称
Windows98	Microsoft [®] Windows [®] 98 Operating System
Windows95	Microsoft [®] Windows [®] 95 Operating System
Windows98/95	Windows98及びWindows95の総称
Windows3.1	Microsoft [®] Windows [®] Operating System Version3.1
WindowsNT4.0	Microsoft [®] WindowsNT [®] Operating System Version4.0
WindowsNT3.51	Microsoft [®] WindowsNT [®] Operating System Version3.51
WindowsNT	WindowsNT4.0及びWindowsNT3.51の総称
Windows	Windows98/95, Windows3.1, WindowsNTの総称
標準HDD	お使いのパソコンに接続されている標準IDEハードディスク
増設HDD	新規購入した増設用内蔵IDEハードディスク (弊社UHD1/98シリーズ等)

本書の見方

以下の流れに沿って、必要な箇所をお読みください。



ハードウェア構成

本書では以下のような構成を想定して説明しています。構成の相違点を確認しながら読み進めてください。

《ドライブ構成》

- A : ハードディスク装置 (内蔵IDE接続)
ご使用になるOSがインストール済みで起動可能
- B : ハードディスク装置 (内蔵IDE接続)
- C : フロッピーディスク装置3.5インチ (1.44MB/1.25MB/720KB)
- D : CD-ROMドライブ装置

はじめに	i
目次	

第1章 ご使用になる前に..... 1

1.1 特徴	2
1.2 箱を開けたら	4
1.3 各部の名称	6
1.4 動作環境	7
1.5 取り扱い及び使用上の注意.....	9
1.6 実行用ディスクの作り方.....	11

第2章 セットアップ方法 13

2.1 パソコン環境の確認.....	14
2.2 セットアップ	15
1 . UIDE-98シリーズのパソコンへの取り付け及び 各OSへのインストール	17
Windows98をお使いの場合.....	18
Windows95をお使いの場合.....	22
WindowsNT4.0をお使いの場合.....	28
WindowsNT3.51をお使いの場合.....	31
Windows3.1,MS-DOSをお使いの場合.....	33
2 . UIDE-98シリーズに接続する内蔵IDE機器の設定.....	34
IDE機器のジャンパ設定.....	34
3台以上のIDE機器を接続する際の設定.....	36
3 . UIDE-98シリーズと内蔵IDE機器の接続.....	39
4 . UIDE-98シリーズの動作確認及び各IDE機器の設定.....	45
Windows98/95への接続終了後の設定.....	48
Windows3.1,MS-DOSへの接続終了後の設定.....	49
各IDE機器の設定.....	52

付録 1 BIOSの設定..... 5 4

付録 2 困った時には..... 6 1

 パソコン起動時のトラブル..... 6 1
 使用中のトラブル..... 6 5

付録 3 Enhanced IDEについて 6 8

 Enhanced IDE機器について..... 6 8
 UIDE-98シリーズに接続可能なIDE機器数..... 7 0
 UIDE-98シリーズに接続するIDE機器の優先順位..... 7 2
 ドライブの割り当て順位について..... 7 3

付録 4 用語解説..... 7 5

付録 5 仕様..... 7 7

付5.1 パソコン環境..... 7 7
付5.2 ハードウェア仕様..... 7 9
 サポートセンターへのお問い合わせ 8 0
 サポートソフトのバージョンアップ 8 1
 修理について 8 2

第1章 ご使用になる前に

この章では、本製品をご使用になる上で必要となる事項を説明しますので、最初に必ずお読みください。

【1.1 特徴】	2
本製品の特徴を説明します。	
【1.2 箱を開けたら】	4
本製品の同梱構成品を確認し、ユーザー登録を行ってください。	
【1.3 各部の名称】	6
本製品の対応機種及び対応OS等を説明します。	
【1.4 動作環境】	7
本製品の対応機種及び対応OS等を説明します。	
【1.5 取り扱い及び使用上の注意】	9
本製品をご使用になる際の注意事項確認し、正しいお取り扱いをお願い致します。	
【1.6 実行用ディスクの作り方】	11
本製品添付のサポートソフトウェアのバックアップ方法を説明します。	

11

特徴

Ultra ATAインターフェイスを搭載していない本体でもUltra DMA/33転送を実現

従来のPIO転送環境からUltra DMA/33転送への移行が可能!!

PIO転送のみをサポートしDMA転送が不可能だったPC-9821シリーズでUltra DMA/33転送(33.3MB/sec)が従来のWindows環境でご利用いただけます。また、「UIDE-98シリーズ」の転送能力はUltra ATAに対応したマザーボードの性能と比較しても遜色はなく、ハードディスク等の転送性能が劇的に向上します。

WindowsNT3.51/4.0、Windows3.1、MS-DOS環境でもUltra DMA/33転送方式で転送!!

CPU占有率が大幅ダウン!!

Ultra DMA/33転送だからPIO転送に比べてCPU占有率が低いため、ビデオCDなどの再生も大変スムーズです。

パソコン本体のハードディスク容量制限がなくなる!!

「UIDE-98シリーズ」に搭載のBIOSを利用するためパソコン本体の容量制限は受けません。大容量化による利便性に加えて、記憶密度の向上により、同回転数でのリード/ライト速度が格段に向上するためパソコンの性能アップに大きく貢献します。

最大4台までの対応IDE機器を接続可能

ボード上の2つのコネクタ(プライマリ/セカンダリ)に、それぞれ2台(マスタ/スレーブ)の対応IDE機器を合計最大4台 まで接続可能

ただし、パソコン本体への取り付けスペース及び機器用の電源容量が用意されている必要があります。また、3台以上の機器を接続する場合や取り付けスペースの位置によっては別途IDEフラットケーブル「FL-140」または「FL-140-L」が必要となる場合があります。

8.4Gバイトを超える大容量ハードディスクに対応

増設用ハードディスクとしてはもちろん、本体で使用していたハードディスクをUIDE-98シリーズに接続しての起動も可能です。



注意

本体の仕様により起動用として使用できるハードディスクの容量が制限される場合があります。また、ご使用の本体によりOSの再セットアップ方法が異なりますので、弊社及び本体メーカーでは再セットアップについてのサポート・保証は致しかねます。

従来のEnhanced-IDE対応機器(弊社製ハードディスク、CD-ROMドライブ等)も接続可能

動作確認機器

- ・ Enhanced IDEハードディスク：
弊社製 「UHD1-x.xG/98シリーズ」, 「HDI-x.xG/98シリーズ」
- ・ CD-ROMドライブ：「CDV-ABシリーズ」、 「CDC-AB86」
- ・ PD/CD-ROMドライブ：「PD-AB8」
- ・ MOドライブ：「MOF-AB640H」
- ・ Multi CD-Rドライブ：「CDR-AB220PD」

【・弊社製CD-ROMチェンジャ(CDC-AB86)を使用する場合】(P52)を参照してください。



注意

使用するIDE機器によっては、UIDE-98のBIOS設定で各IDE機器のモードを「PIOモード3」や「DMAモード2」にする必要があります。
詳細は、【付録1】(P54)を参照してください。

12 箱を開けたら

・ 内容のご確認

内容物	個数	備考
Ultra ATAインターフェイスボード	1枚	UIDE-98シリーズ
UIDE-98シリーズサポートソフト	1枚	3.5インチ2HD(1.44MB)
UIDE-98シリーズ取扱説明書	1冊	本書
Verシール	1枚	
ハードウェア保証書	1枚	
ハードウェアシリアルNo.シール	1枚	
ユーザー登録カード	1枚	
IDEフラットケーブル	1本	60cm
『安全で快適にお使いいただくために』	1冊	

万が一、不足がございましたら弊社サポートセンターまでお知らせください。

お願い：箱・梱包材は大切に保管し、修理などで輸送の際にご利用ください。

〈別売 オプション〉

型番	長さ	タイプ
FL-140	45cm	IDEフラットケーブル
FL-140-L	60cm	同上

・ ユーザー登録について

オンラインによる登録と、ハガキによる登録の2通りがあります。

いずれかの方法で登録を行ってください。

《オンラインによる登録》（インターネット <http://www.iodata.co.jp/support/>）

I-O DATA ホームページのサポートコーナーに「オンライン・ユーザー登録」リンクが用意されています。このボタンをクリックするとオンライン登録の案内が表示されますので、画面の表示にしたがって必要事項を記入することにより、即座にユーザー登録が行えます。

オンライン・ユーザー登録を行えば、抽選で賞品が当たる等のお楽しみ企画をご用意しております。

オンライン・ユーザー登録後、お手元のユーザー登録カードには、ユーザー登録番号を記入して大切に保管してください。

《ハガキによる登録》

- 1) 添付のVerシールを、ユーザー登録カード、サポートソフトウェアディスクの「Verシール」と書かれている欄、本書の巻末に貼ってください。
- 2) ユーザー登録カードに添付のハードウェアシリアルNo.シールを貼り、必要な事項をご記入のうえ、弊社まで必ずご返送ください。



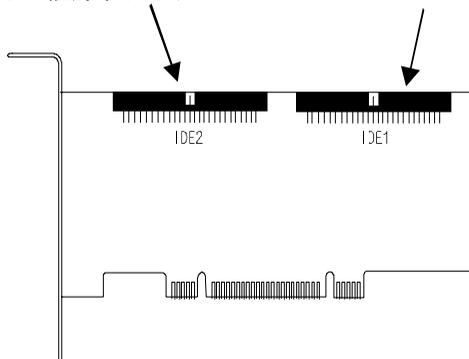
注意

- 1) 弊社ではサポートセンターで、ソフトウェアのバージョンアップサービスなどを行っていますが、これらのサービスはユーザー登録を行った方のみが対象となります。お買い上げいただいた製品ごとに必ず登録してください。
- 2) ユーザー登録の際、必要事項のご記入もれ(ユーザー登録カードの場合は、必要なシールの貼り忘れなど)があった場合は、ユーザー登録できませんので、必ずご確認ください。

13 各部の名称

セカンダリコネクタ [IDE2]
(IDEフラットケーブル接続用40ピン)

プライマリコネクタ [IDE1]
(IDEフラットケーブル接続用40ピン)



14 動作環境

対応機種

PC-9821Xa, Xa7, Xa7e, Xa9, Xa10, Xa12, Xa13 (/K12, /K16, /W12),
 Xa16 (/R12, /R16, /W16, /W30), Xa20 (/W30),
 Xb10 (/J8), Xc13 (/M7, /S5),
 Xc16 (/M7, /S5, /S7),
 Xv13 (/R16, /W16), Xv20 (/W30),
 V7*1, V10*2, V12, V13 (/M7, /S5, /S5R, /S7R),
 V16 (/M7, /S5, /S5P, /S5V), V20 (/M7, /S5, /S7),
 V166 (/S5*3, /S7*3), V200 (/M7, /MZ, /S5, /S7*3, /SZ*3), V233 (/M7, /M7V)

*1 PC-9821V7/C4K model A, Bは除く。

*2 PC-9821V10/C4R model A, Bは除く。

*3 下記の8モデルでは、バスマスタ機能有効時のバースト転送はご利用いただけません。BIOSメニュー『基本設定』の『バースト転送』（【付録1】(P54)参照)を『無効』に設定してお使いください。
 (その場合、転送速度が低下しますが『無効』に設定しないとパソコンが起動しないなどの不具合が発生します。)

PC-9821V166 (/S5C, /S5D, /S7C, /S7D)

PC-9821V200 (/S7C, /S7D, /SZC, /SZD)



注意

弊社製Enhanced IDEボードIDE-98との併用はできません。

対応OS

Windows98/95,
 Windows3.1(MS-DOS Ver6.2以降),
 WindowsNT3.51/4.0,
 MS-DOS Ver6.2以降



注意

【Windows3.1,MS-DOSで使用時の注意】

メモリマネージャを利用する場合、32Bit I/Oアクセス可能なバージョンが必要です。

EMM386.EXE (NEC製Windows3.1、Microsoft製Windows3.1、
NEC製MS-DOS Ver.6.2以降に添付)

VMM386.EXE Ver.3.10以降 (WinKit-H に添付)
(VMM386.EXEは、PentiumPro,Pentium には未対応。)

動作確認機器

・Enhanced IDEハードディスク：

弊社製「UHD1-x.xG/98シリーズ」,「HDI-x.xG/98シリーズ」

・CD-ROMドライブ：「CDV-ABシリーズ」、「CDC-AB86」

・PD/CD-ROMドライブ：「PD-AB8」

・MOドライブ：「MOF-AB640H」

・Multi CD-Rドライブ：「CDR-AB220PD」

【・弊社製CD-ROMチェンジャ(CDC-AB86)を使用する場合】(P52)を参照してください。

Ultra DMA転送を行えないIDE機器をUIDE-98に取り付けた場合は、PIOまたはDMA転送となります。(各IDE機器の取扱説明書を参照し、対応する転送モードを確認してください。)



注意

1)他社製のIDE機器を、UIDE-98シリーズに接続した場合は、弊社では動作保証いたしかねます。

2)増設用のハードディスクを起動用としてご使用の際は、環境の移行の終了を確認されるまでは、必ず元の環境を残してください。

3)弊社製PDドライブ(PD-AB8)及びCD-ROMチェンジャ(CDC-AB86)は、Windows98/95のみ対応です。

4)弊社製DVD-ROMドライブには、対応していません。

15

取り扱い及び使用上の注意

本製品のパッケージの中に「安全で快適にお使いいただくために」という小冊子が入っています。本製品を末長くご使用いただくためにも、その小冊子を必ずお読みになり、書かれていることをお守りください。

このページではその小冊子の注意事項以外のことを説明します。

UIDE-98シリーズや各IDE機器の取り付けや取り外しのときは、必ずパソコン本体及び周辺機器の電源を切ってから行ってください。

パソコン本体の内部基板や本製品は静電気に対して大変敏感です。

衣類や人体にたまった静電気に触れると破壊されることがありますので、ご注意ください。本製品に触れる前に、金属製のものに触れるなどして静電気を放電してください。また、エッジコネクタ部分には絶対に触れないでください。

本製品に接続したハードディスクから起動させることも可能です。

本体の仕様により起動用として使用できるハードディスクの容量が制限される場合があります。また、ご使用の本体によりOSの再セットアップ方法が異なりますので、弊社及び本体メーカーでは再セットアップについてのサポート・保証は致しかねます。

パソコン本体接続のIDE ハードディスクがない場合（ATAPI接続のCD-ROMのみの場合）、パソコン本体が起動できなくなったり、CD-ROMを認識しなくなる場合があります。

保証について

保証期間

- ・保証期間は、お買い上げの日より1年間です。保証期間を過ぎたものや、保証書に販売店印とお買い上げ日の記述のないものは、有料修理となります。また、修理を受ける場合には保証書が必要になりますので、大切に保管してください。
 - ・弊社が販売中止を決定してから、一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。
- 詳細は、ハードウェア保証書をご覧ください。

保証範囲

次のような場合は、保証の責任を負いかねます。予めご了承ください。

- ・本製品の使用によって生じた、データの消失及び破損。
- ・本製品の使用によって生じた、いかなる結果やその他の異常。
- ・弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障。

16 実行用ディスクの作り方

本製品に添付されているサポートソフトディスクは必ずバックアップを取り、バックアップディスクの方を実行用ディスクとしてご使用ください。

ここでは、フロッピーディスクドライブがCドライブの場合の例を示します。

1 1.44MBでフォーマット済みの空きフロッピーディスク(3.5インチ2HD)を用意します。

2 サポートソフトディスクを書き込み禁止にします。

3 サポートソフトディスクのコピーを開始します。

Windows98/95, WindowsNT4.0の場合

『マイコンピュータ』の『3.5インチ FD(C:)』を右クリックし『ディスクのフォーマット』を選択します。

例)



MS-DOS(Windows3.1), WindowsNT3.51の場合

MS-DOSのコマンド入力状態でDISKCOPY コマンドを実行します。

例)

A:>diskcopy c: c: *

(下線部入力)

4 指示に従ってバックアップを取ります。

サポートソフトディスクと空きフロッピーディスクをメッセージに従って入れ替えながら、バックアップを取ります。



注意

サポートソフトディスクを破損した場合の修理は有償です。
必ずバックアップを取り、サポートソフトディスクは大切に保管してください。

MEMO

第2章 セットアップ方法

この章では、セットアップ方法を説明します。

- 【2.1 パソコン環境の確認】 14
本製品を使用するためのパソコン環境の確認を行います。
- 【2.2 セットアップ】 15
本製品をセットアップする方法を説明します。

21

パソコン環境の確認

UIDE-98シリーズはプラグ&プレイ(Plug and Play)に対応していますのでリソース(「割り込み(IRQ)」、「I/Oポートアドレス」、「メモリアドレス」)は自動的に設定されます。パソコンにセットする際に特別な設定は必要ありません。

[プラグ&プレイに対応していないボードと共に使用する場合]

UIDE-98シリーズ以外のボードが使用するリソースをコンフィギュレーションユーティリティ(PCIセットアップユーティリティ)により、予め設定しておく必要があります。設定の詳細はお持ちのパソコンや各拡張ボードの取扱説明書を参照してください。(【付5.1 パソコン環境】(P77)も参照してください。)



注意

1)使用可能な「割り込み(IRQ)」や「DMAチャンネル」の数は、限られています。このため、拡張ボードを多く使用しようとする、空いている番号がなくなり重複が避けられない場合があります。この場合は、重複の避けられない拡張ボードと併用できません。それらのボードを必要に応じて使い分けてください。また、「I/Oポートアドレス」の使用状況の確認等については、各拡張ボードの取扱説明書を参照してください。

2)UIDE-98シリーズが使用するリソースを手動で変更することはできません。(UIDE-98シリーズが使用するリソースは、起動時に表示されます。詳細は、【4.動作確認】(P45)を参照してください。)

3)パソコン本体に添付のPCIセットアップディスク(PCIセットアップユーティリティ)で、UIDE-98シリーズを接続したPCIスロットのリソース割り当てを「固定」にすると、リソースが正しく割り振られません。PCIセットアップユーティリティの設定は「自動」でお使いください。詳細はパソコン本体の取扱説明書を参照してください。

2.2 セットアップ

ここでは、以下のように呼びます。

呼び方	意味
標準HDD	お使いのパソコンに接続されている標準IDEハードディスク
増設HDD	新規購入した増設用内蔵IDEハードディスク (弊社UHD1/98シリーズ等)

[UIDE-98シリーズを取り付ける前に]
UIDE-98シリーズを取り付ける前に以下の設定,確認を行ってください。

・パソコン起動用のハードディスクに使用したい各OSがインストールされていない場合は、各OSをインストールしておいてください。

・Windows98/95でPCIバス用のSCSIインターフェイスボードを使用する場合は、SCSIインターフェイスのセットアップ(取り付け及びドライバのインストール等)を終了しておいてください。



注意

UIDE-98シリーズに接続した増設HDDから起動する場合は、増設HDDをパソコン本体のIDEコネクタに接続
各OSをインストール
UIDE-98シリーズのセットアップ
パソコン本体に接続した増設HDDをUIDE-98シリーズに接続
の手順で行ってください。
ハードディスクへのOSの再セットアップ等に関する「お問い合わせ」「保証」「サポート」は、弊社及びパソコン本体メーカーでは致しかねます。ご了承ください。

セットアップ手順

1 . UIDE-98シリーズのパソコンへの取り付け及び各OSへのドライバのインストール

UIDE-98シリーズをパソコンに取り付けUIDE-98シリーズのドライバをインストールします。

↓ P17 ~

2 . UIDE-98シリーズに接続する内蔵IDE機器の設定

UIDE-98シリーズに接続する内蔵IDE機器(ハードディスクやCD-ROMドライブ)のジャンパススイッチの設定を行います。

↓ P34 ~

3 . UIDE-98シリーズと内蔵IDE機器の接続

UIDE-98シリーズに内蔵IDE機器を接続します。

↓ P39 ~

4 . UIDE-98シリーズの動作確認及び各IDE機器の設定

UIDE-98シリーズの動作確認及び各IDE機器の設定を行います。

↓ P45 ~

設定終了

これでUIDE-98シリーズのセットアップは終了です。

1 . UIDE-98シリーズのパソコンへの取り付け及び各OSへの ドライバのインストール

各OSによりセットアップ手順が異なります。

ご使用のOSにあわせて、以下の必要なページのみをご覧ください。

Windows98をご使用の場合

【Windows98へのセットアップ】(次ページ～)をご覧ください。

Windows95をご使用の場合

【Windows95へのセットアップ】(P22～)をご覧ください。

WindowsNT4.0をご使用の場合

【WindowsNT4.0へのセットアップ】(P28～)をご覧ください。

WindowsNT3.51をご使用の場合

【WindowsNT3.51へのセットアップ】(P31～)をご覧ください。

Windows3.1,MS-DOSをご使用の場合

【Windows3.1,MS-DOSへのセットアップ】(P33)をご覧ください。

Windows98をお使いの場合



注意

パソコン起動用のハードディスクにWindows98がインストールされていない場合は、インストールしておいてください。

・Windows98へのセットアップ

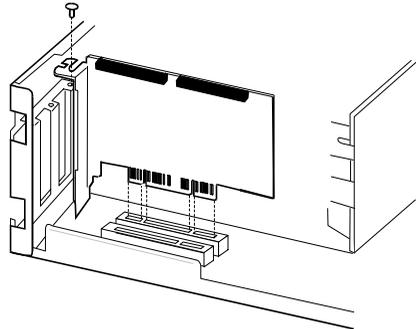
1 パソコンの電源スイッチを切り、周辺機器に接続されているケーブルと電源ケーブル等を全て取り外します。

2 パソコンのカバーを取り外します。

取り外し方については、パソコンの取扱説明書を参照してください。

3 PCIバススロットにUIDE-98シリーズを取り付けます。

PCIスロットカバーを止めているネジを外し、PCIスロットカバーを取り外します。PCIバスのスロットにUIDE-98シリーズを取り付け、取り外したネジで固定します。(PCIバススロットの位置等についてはパソコン本体の取扱説明書を参照してください。)



4 Windows98を起動します。

Windows98がUIDE-98シリーズを検出して、“新しいハードウェアの追加ウィザード”が起動されます。



参照

パソコンが起動しない場合は、【2.1 パソコン環境の確認】(P14)の注意を参照し、リソースの確認及び設定を行ってください。

5 UIDE-98シリーズサポートソフトをフロッピーディスクドライブにセットします。

Windows98をお使いの場合(つづき)

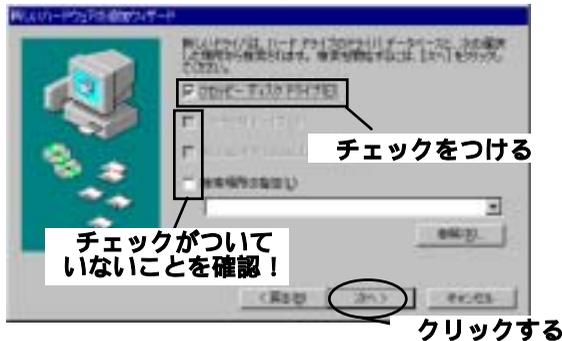
6 [次へ] ボタンをクリックします。



7 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する」を選択して、[次へ]をクリックしてください。



8 「フロッピーディスクドライブ」のみにチェックをつけ、[次へ]ボタンをクリックします。



Windows98をお使いの場合(つづき)

9 [次へ]をクリックします。

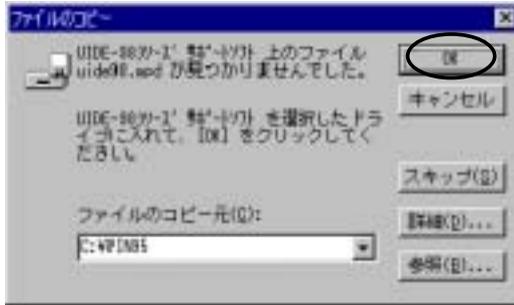


10 [OK]をクリックします。



11 “ファイルのコピー元” にフロッピーディスクドライブのWIN95フォルダを入力し、[OK]ボタンをクリックします。

例) C:¥WIN95 (フロッピーディスクドライブがCドライブの場合)



12 [完了]をクリックします。

UIDE-98シリーズサポートソフトを抜き、再起動してください。

以上で、インストールは終了です。次ページで確認を行ってください。

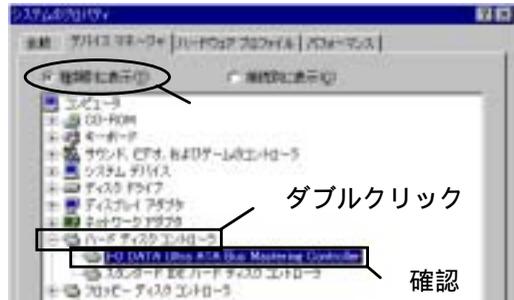
Windows98をお使いの場合(つづき)

・インストール状態の確認

『スタート』 - 『設定』 - 『コントロールパネル』の『システム』アイコンをダブルクリックし、[デバイス]タブをクリックして以下の確認を行ってください。

「種類別に表示」での「ハードディスクコントローラ」をダブルクリックして「I-O DATA Ultra ATA Bus Mastering Controller」が登録されているのを確認してください。

[種類別に表示]の画面例



正常であればUIDE-98シリーズは使用できます。Windows98を終了しパソコンの電源を切ってください。

次にIDE機器の設定及び接続を行うため、【2・UIDE-98シリーズに接続する内蔵IDE機器の設定】(P34)へお進みください、



参照

「I-O DATA Ultra ATA Bus Mastering Controller」の頭に“！”マークが付いている場合は、【付録2】(P61)を参照してください。



注意

「I-O DATA Ultra ATA Bus Mastering Controller」ではなく、「PCI SCSI Bus Controller」を表示されている場合は、インストール失敗しています。
「PCI SCSI Bus Controller」をクリックし、[削除]ボタンをクリックして、再起動後もう一度インストールし直してください。

Windows95をお使いの場合



パソコン起動用のハードディスクにWindows95がインストールされていない場合は、インストールしておいてください。

注意

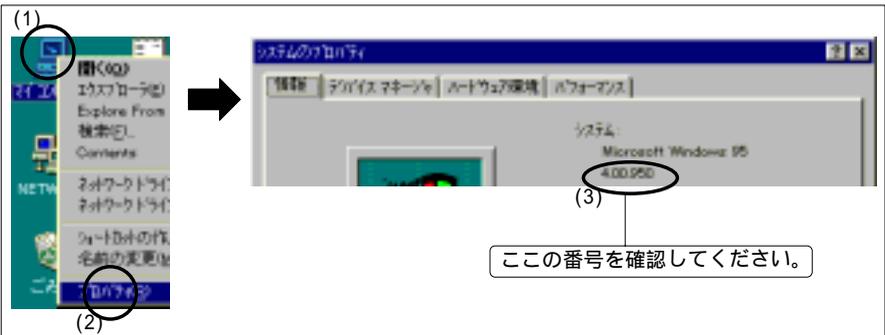
・Windows95のバージョンの確認

UIDE-98シリーズを取り付ける前に、以下の方法でWindows95のバージョンを確認してください。(Windows95のバージョンによってUIDE-98シリーズのドライバのインストール手順等が異なる為です。)

<確認方法>

『マイコンピュータ』にマウスカーソルを合わせてマウスの右ボタンをクリックし(1)、現れたメニューから『プロパティ』をクリックします(2)。『システムのプロパティ』に表示される番号を確認してください(3)。

(Windows95のバージョンには、「4.00.950」、「4.00.950a」、「4.00.950 B」、「4.00.950 C」があります。)



Windows95をお使いの場合(つづき)

・UIDE-98シリーズのパソコンへの取り付け

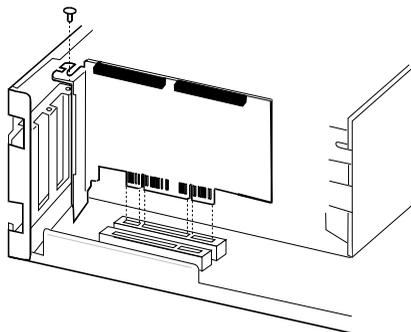
1 パソコンの電源スイッチを切り、周辺機器に接続されているケーブルと電源ケーブル等を全て取り外します。

2 パソコンのカバーを取り外します。

取り外し方については、パソコンの取扱説明書を参照してください。

3 PCIバススロットにUIDE-98シリーズを取り付けます。

PCIスロットカバーを止めているネジを外し、PCIスロットカバーを取り外します。PCIバスのスロットにUIDE-98シリーズを取り付け、取り外したネジで固定します。(PCIバススロットの位置等についてはパソコン本体の取扱説明書を参照してください。)



・インストール

Windows95のバージョン(「4.00.950または4.00.950a」,「4.00.950 Bまたは4.00.950 C」)によってインストール手順(画面)が異なります。

以下の各手順では、

バージョンが4.00.950または4.00.950aの場合

「Windows95 4.00.950/4.00.950aの場合」(次ページ)をお読みください。

バージョンが4.00.950 Bまたは4.00.950 Cの場合

「Windows95 4.00.950 B/4.00.950 Cの場合」(P25)をお読みください。

Windows95をお使いの場合(つづき)

バージョンが4.00.950または4.00.950aの場合

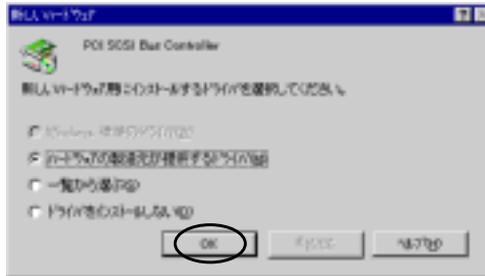
4 電源を入れ、Windows95を起動します。



参照

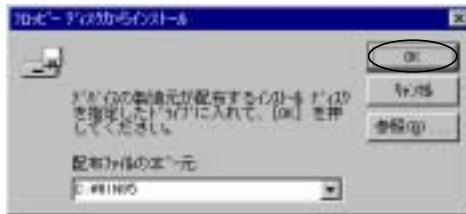
パソコンが起動しない場合は、【2.1 パソコン環境の確認】(P14)の注意を参照し、リソースの確認及び設定を行ってください。

5 「ハードウェアの製造元が提供するドライバ」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。



6 「UIDE-98シリーズサポートソフト」ディスクを挿入します。
[配布ファイルの北元]には、フロッピーディスクドライブの
¥win95 フォルダを入力後、[OK]ボタンをクリックします。
インストールを開始します。

例) C:¥WIN95 (フロッピーディスクドライブが C ドライブの場合)



インストール終了後、必ずWindows95を再起動してください。再起動後、インストール後の確認を行ってください。(P27参照)

Windows95をお使いの場合(つづき)

バージョンが4.00.950 Bまたは4.00.950 Cの場合

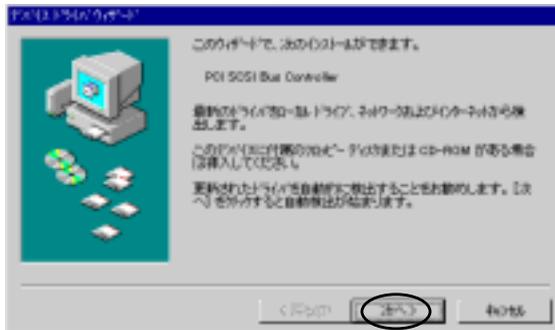
4 電源を入れ、Windows95を起動します。



参照

パソコンが起動しない場合は、【2.1 パソコン環境の確認】(P14)の注意を参照し、リソースの確認及び設定を行ってください。

5 「UIDE-98シリーズサポートソフト」ディスクをセットし、**[次へ]**ボタンをクリックします。



6 **[完了]**ボタンをクリックします。

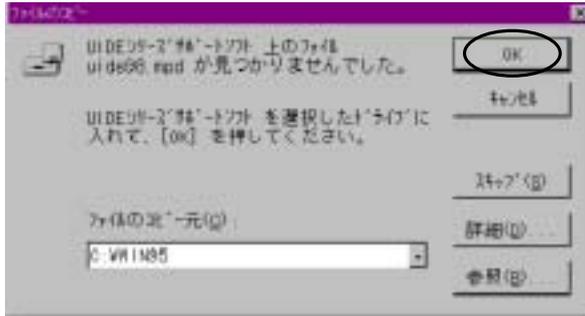


Windows95をお使いの場合(つづき)

7 「ファイルのコピー」画面では、フロッピーディスクドライブの¥win95 フォルダを入力後、[OK]ボタンをクリックしてください。

インストールを開始します。

例) C:¥WIN95 (フロッピーディスクドライブが C ドライブの場合)



インストール終了後、必ずWindows95を再起動してください。再起動後、インストール後の確認を行ってください。(次ページ参照)

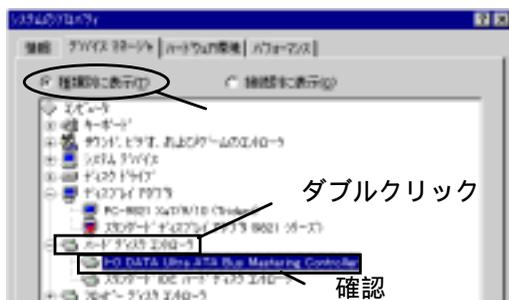
Windows95をお使いの場合(つづき)

・インストール状態の確認

『スタート』 - 『設定』 - 『コントロールパネル』の『システム』アイコンをダブルクリックし、[デバイスマネージャ]タブをクリックして以下の確認を行ってください。

「種類別に表示」での「ハードディスクコントローラ」をダブルクリックして「I-O DATA Ultra ATA Bus Mastering Controller」が登録されているのを確認してください。

[種類別に表示]の画面例



正常であればUIDE-98シリーズは使用できます。Windows95を終了しパソコンの電源を切ってください。

次にIDE機器の設定及び接続を行うため、【2・UIDE-98シリーズに接続する内蔵IDE機器の設定】(P34)へお進みください、



参照

「I-O DATA Ultra ATA Bus Mastering Controller」の頭に“！”マークが付いている場合は、【付録2】(P61)を参照してください。



注意

「I-O DATA Ultra ATA Bus Mastering Controller」ではなく、「PCI SCSI Bus Controller」を表示されている場合は、インストール失敗しています。
「PCI SCSI Bus Controller」をクリックし、[削除]ボタンをクリックして、再起動後もう一度インストールし直してください。

WindowsNT4.0をお使いの場合



注意

パソコン起動用のハードディスクにWindowsNT4.0がインストールされていない場合は、インストールしておいてください。

・インストール

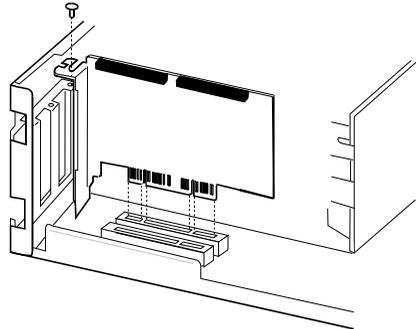
1 パソコンの電源スイッチを切り、周辺機器に接続されているケーブルと電源ケーブル等を全て取り外します。

2 パソコンのカバーを取り外します。

取り外し方については、パソコンの取扱説明書を参照してください。

3 PCIバススロットにUIDE-98シリーズを取り付けます。

PCIスロットカバーを止めているネジを外し、PCIスロットカバーを取り外します。PCIバスのスロットにUIDE-98シリーズを取り付け、取り外したネジで固定します。(PCIバススロットの位置等についてはパソコン本体の取扱説明書を参照してください。)



4 パソコンの電源を入れます。

電源を入れる前に、UIDE-98シリーズが、パソコンに正しく取り付けられていることを確認します。



参照

パソコンが起動しない場合は、【2.1 パソコン環境の確認】(P14)の注意を参照し、リソースの確認及び設定を行ってください。

5 『スタート』 『設定』 『コントロール 』を開きます。

WindowsNT4.0をお使いの場合(つづき)

6 「SCSI アダプタ」のアイコンをダブルクリックします。「ドライバ」タブを選択し、「追加」をクリックします。

7 「UIDE-98シリーズサポートソフト」ディスクをセットします。

8 「ディスク使用」をクリックし、フロッピーディスクドライブの¥winnt フォルダを入力します。

c:¥winnt (フロッピーディスクドライブが C ドライブの場合)

と入力後、[OK]をクリックしてください。

この後、「I-O DATA Ultra ATA Bus Mastering Controller」を選択し、[OK]ボタンを選択してください。UIDE-98シリーズドライバのインストールを開始します。

9 システムを再起動します。

システムを再起動するメッセージが表示されますので、「UIDE-98シリーズサポートソフト」を抜いて、[はい]ボタンをクリックしてください。

以上でインストール終了です。この後、次ページでインストールが正常に行われたことの確認を行ってください。

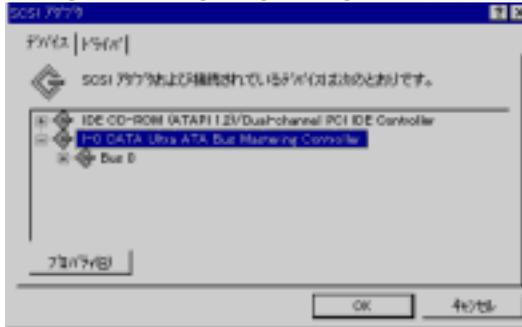
WindowsNT4.0をお使いの場合(つづき)

・インストール後の確認

以下の 及び の確認を行ってください。

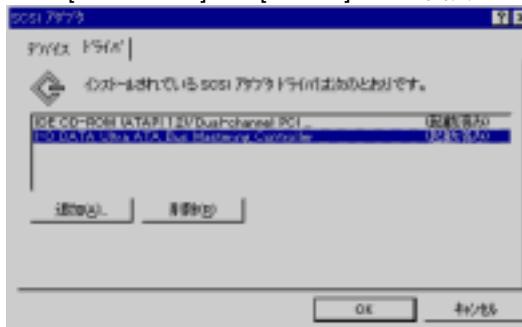
『スタート』 『設定』 『コントロール 板』 『SCSIアダプタ』の[デバイス]タブで「I-O DATA Ultra ATA Bus Mastering Controller」が登録されていることを確認してください。

[SCSIアダプタ]での[デバイス]タブの画面



『スタート』 『設定』 『コントロール 板』 『SCSIアダプタ』の[ドライバ]タブで「I-O DATA Ultra ATA Bus Mastering Controller」が「起動済み」であることを確認してください。

[SCSIアダプタ]での[ドライバ]タブの画面



確認終了後に、Windowsを終了し、パソコンの電源を切ってください。

その後、【UIDE-98シリーズに接続する内蔵IDE機器の設定】(P34)へお進みください。

WindowsNT3.51をお使いの場合



注意

パソコン起動用のハードディスクにWindowsNT3.51がインストールされていない場合は、インストールしておいてください。

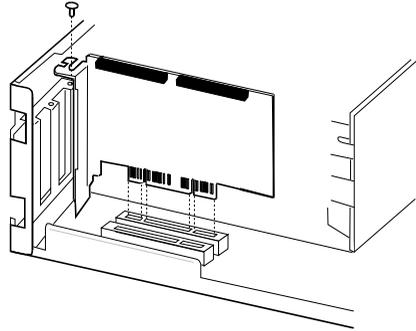
1 パソコンの電源スイッチを切り、周辺機器に接続されているケーブルと電源ケーブル等を全て取り外します。

2 パソコンのカバーを取り外します。

取り外し方については、パソコンの取扱説明書を参照してください。

3 PCIバススロットにUIDE-98シリーズを取り付けます。

PCIスロットカバーを止めているネジを外し、PCIスロットカバーを取り外します。PCIバスのスロットにUIDE-98シリーズを取り付け、取り外したネジで固定します。(PCIバススロットの位置等についてはパソコン本体の取扱説明書を参照してください。)



4 パソコンの電源を入れます。

UIDE-98シリーズが、パソコンに正しく取り付けられていることを確認してから、パソコンの電源を入れてください。



参照

パソコンが起動しない場合は、【2.1 パソコン環境の確認】(P14)の注意を参照し、リソースの確認及び設定を行ってください。

5 「プログラマネージャ」 - 「メイン」 - 「Windows NT セットアップ」 - 「設定」 - 「SCSI アダプタの追加と削除」を開きます。

Windows3.51をお使いの場合(つづき)

- 6 「追加」を選択すると警告メッセージが表示されますので、[OK]をクリックします。
- 7 「アダプタ」-「その他」を選択します。
- 8 「UIDE-98シリーズサポートソフト」ディスクをセットします。
- 9 「フロッピーディスクの挿入」では、フロッピーディスクドライブの ¥winnt ディレクトリを入力します。
c:¥winnt (フロッピーディスクドライブがCドライブの場合)
入力後、[OK]をクリックしてください。UIDE-98シリーズドライバのインストールを開始します。

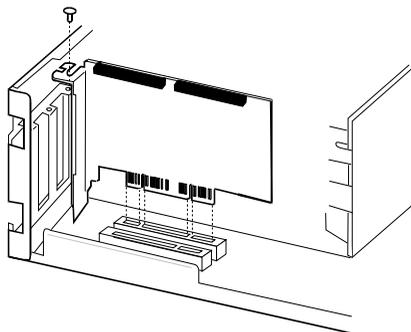
以上でインストール終了です。Windowsを終了し、パソコンの電源を切ってください。

その後、【2 . UIDE-98シリーズに接続する内蔵IDE機器の設定】(P34)へお進みください、

Windows3.1,MS-DOSをお使いの場合

- 1 パソコンの電源スイッチを切り、周辺機器に接続されているケーブルと電源ケーブル等を全て取り外します。
- 2 パソコンのカバーを取り外します。
取り外し方については、パソコンの取扱説明書を参照してください。
- 3 PCIバススロットにUIDE-98シリーズを取り付けます。

PCIスロットカバーを止めているネジを外し、PCIスロットカバーを取り外します。PCIバスのスロットにUIDE-98シリーズを取り付け、取り外したネジで固定します。(PCIバススロットの位置等についてはパソコン本体の取扱説明書を参照してください。)



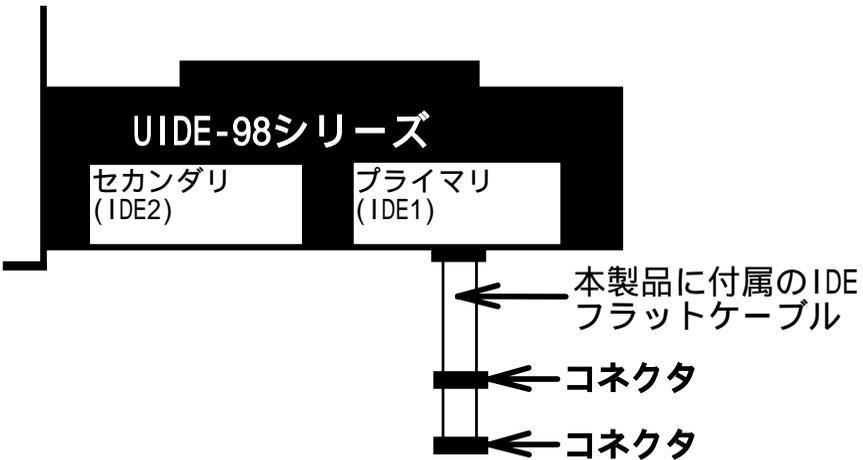
次ページへお進みください、

2 . UIDE-98シリーズに接続する内蔵IDE機器の設定

IDE機器のジャンパ設定

ご使用になる環境により、UIDE-98シリーズに接続するIDE機器のジャンパスイッチの設定(マスタ/スレーブまたはシングル)を変更する必要があります。以下を参照し、必要に応じてIDE機器の設定を変更してください。ジャンパスイッチの詳細については各IDE機器の取扱説明書をご覧ください。

図 1



IDE機器を1台のみ接続する場合

接続位置	図1のプライマリのコネクタ に接続します。
IDE機器のジャンパスイッチの設定	<p>『マスタ』に設定してください。 (接続するハードディスクに「WESTERN DIGITAL」と表記されている場合、『シングル』設定にします。 スレーブに他のIDE機器を接続するときは『マスタ』に、設定します。)</p> <p>(例:ウェスタンデジタル社製ハードディスク)</p>

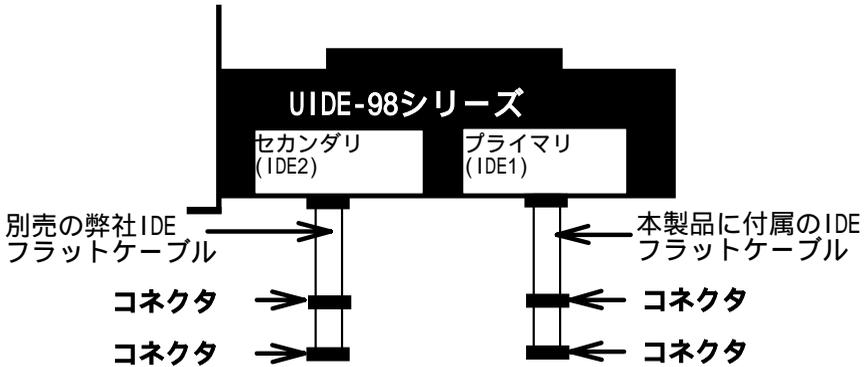
IDE機器を2台接続する場合

接続位置	図1のプライマリ(コネクタ ,)に接続します。
IDE機器のジャンパスイッチの設定	<p>パソコン本体に認識を優先させたい方を『マスタ』にもう一方を『スレーブ』に設定してください。 (優先順位については、【 UIDE-98シリーズに接続するIDE機器の優先順位】(P72)参照)</p>

3台以上のIDE機器を接続する際の設定

UIDE-98シリーズには、IDEフラットケーブルを使用してそれぞれ2台ずつ計4台までのIDE機器を接続することができます。ただし、3台以上のIDE機器を接続するには、別売オプションの弊社IDEフラットケーブルが必要になります。(詳細は《別売オプション》P4を参照してください。)

図2 : 3台以上のIDE機器の場合



IDE機器を4台接続する場合

接続位置	図2のプライマリ及びセカンダリのすべてのコネクタ(コネクタ , , ,)に接続します。
ジャンパ設定	プライマリ(コネクタ ,)及びセカンダリ(コネクタ ,)各々で、パソコン本体に認識を優先させたい方を『マスタ』、もう一方を『スレーブ』に設定してください。ただし、4台それぞれの優先順位を確認して設定してください。 (【 UIDE-98シリーズに接続するIDE機器の優先順位】(P72)参照)

3 . UIDE-98シリーズと内蔵IDE機器の接続



注意

- 1) UIDE-98シリーズには、他社製のIDE仕様(ATAPI)のCD-ROMドライブ・MOドライブ等を接続することはできませんが、動作保証いたしております。
- 2) 弊社製PDドライブ(PD-AB8)及びCD-ROMチェンジャ(CDC-AB86)は、Windows98/95のみ対応です。
- 3) 弊社製DVD-ROMドライブには、対応しておりません。
- 4) IDE機器は、ご使用になるパソコン及びOSに対応していることを確認の上接続してください。

接続方法

7 UIDE-98シリーズにIDE機器を接続します。

IDE機器の接続には、付属のIDEフラットケーブルをUIDE-98シリーズのプライマリコネクタに接続して使用します。その他電源ケーブル等は、パソコン本体に付属のものをお使いください。接続方法については、お使いのIDE機器の取扱説明書を参照してください。次ページからの[取り付け例1～6]についても参考にしてください。

また、3台以上のIDE機器を接続する場合は、**別売オプションの弊社IDEフラットケーブルをUIDE-98シリーズのセカンダリコネクタに接続する必要があります。**(詳細は《別売オプション》P4を参照してください。)



特に注意

UIDE-98シリーズにIDE機器を1台だけ接続した場合、IDEフラットケーブルの空きのコネクタが各種コネクタ類に接触しない様にしてください。

IDE機器にIDEフラットケーブルを取り付ける際は、下図のように凹凸を合わせてください。ケーブルに無理な力を加えずに、奥まできちんと差し込んでください。（ケーブルの接続等は、必ず各IDE機器の取扱説明書で確認してください。）

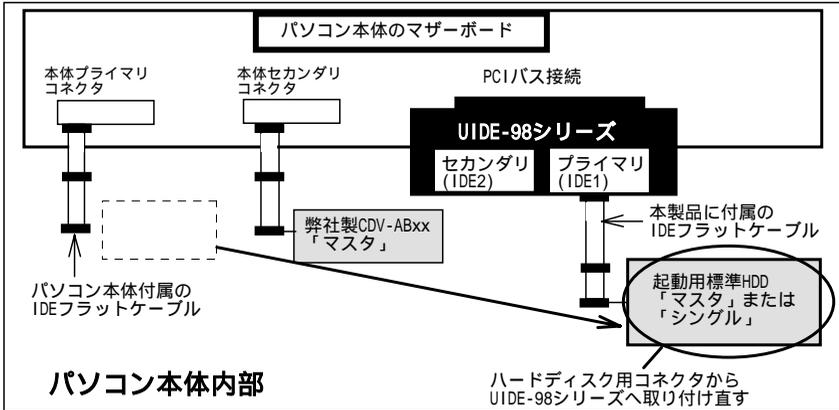
例) 弊社製UHD1シリーズの場合



[取り付け例 1]

増設HDDがない場合で、標準HDDをUIDE-98シリーズに取り付ける場合

(標準HDDのジャンプスイッチは「マスタ」または「シングル」)

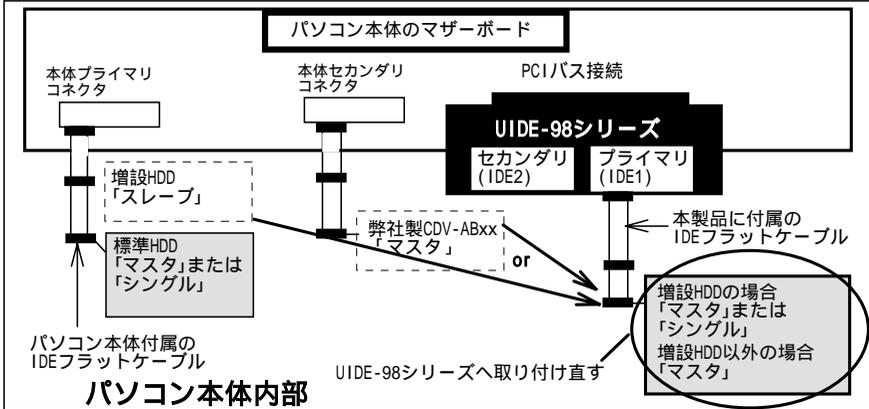


[取り付け例 2]

現在使用しているIDE機器を、UIDE-98シリーズに取り付ける場合

(増設HDDの場合、ジャンプスイッチは「マスタ」または「シングル」)

増設HDD以外のIDE機器の場合、ジャンプスイッチは「マスタ」)

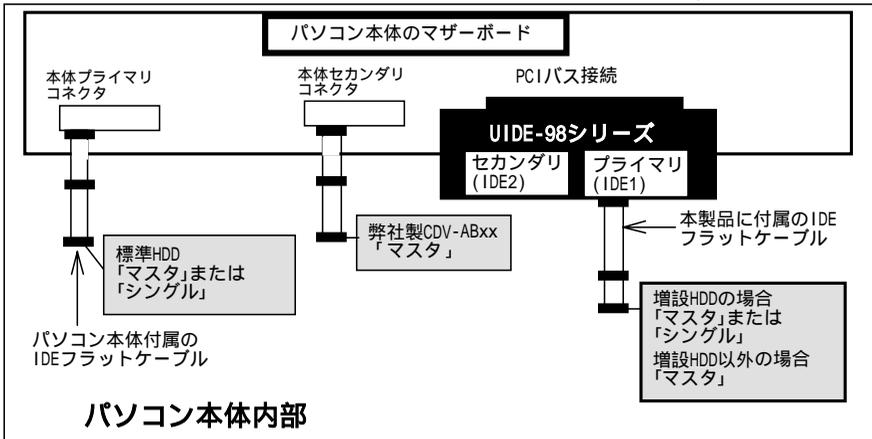


[取り付け例 3]

パソコンに接続していないIDE機器をUIDE-98シリーズに取り付ける場合

(増設HDDの場合、ジャンプスイッチは「マスタ」または「シングル」)

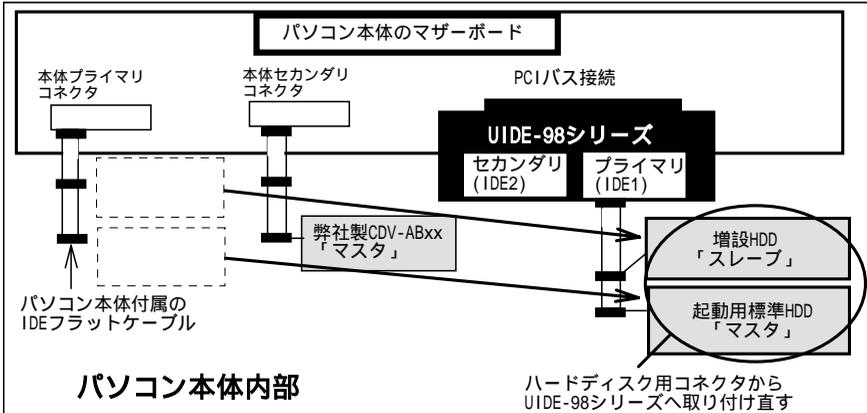
増設HDD以外のIDE機器の場合、ジャンプスイッチは「マスタ」)



[取り付け例 4]

増設HDDがある場合で、標準HDDをUIDE-98シリーズに取り付ける場合

(増設HDDもUIDE-98シリーズに接続し直してください。)



注意

上記[取り付け例 4]では、UIDE-98シリーズにハードディスク接続前後でドライブ名が変わらない様にUIDE-98に接続してください。ドライブ名が変更されると正常に起動しなくなります。

以下の注意点を確認してください。(【ドライブの割り当て順位について】(P73)も参照してください。)

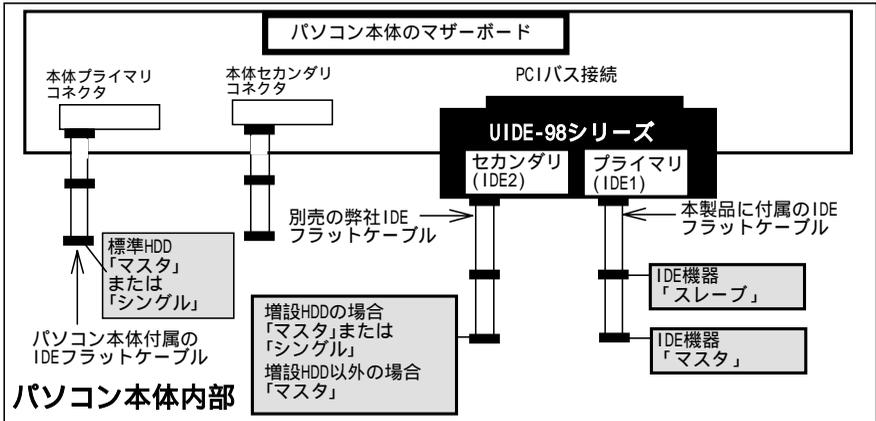
接続するIDE機器のジャンプスイッチの設定を確認してください。

UIDE-98シリーズ接続のハードディスクは「プライマリマスタ」「プライマリスレーブ」「セカンダリマスタ」「セカンダリスレーブ」の順にドライブ名が割り当てられます。

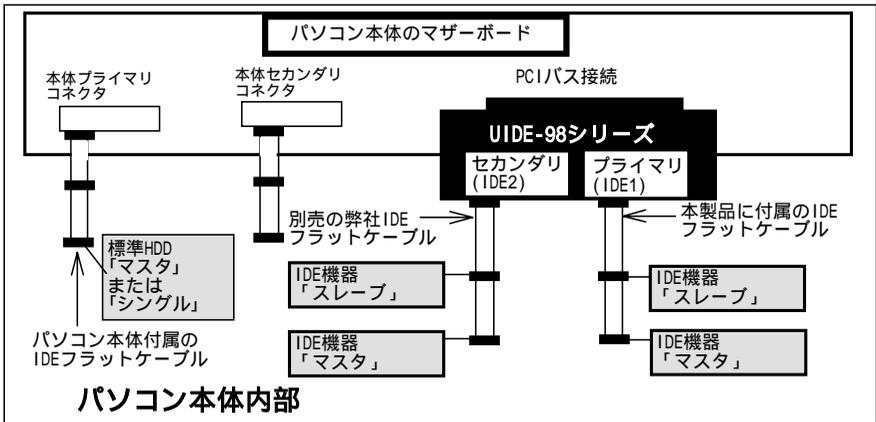
標準HDDをUIDE-98シリーズに取り付ける場合は、増設HDDの使用OSに関係なく必ず増設HDDもUIDE-98シリーズに接続してください。

ハードディスクは、UIDE-98シリーズよりもパソコン本体のIDEインターフェイスが優先されます。標準HDDと共に増設HDDも接続しない場合ドライブ名が変更されるため、正常に起動しなくなります。

[取り付け例 5] (別売オプションの弊社IDEフラットケーブルが必要です。)
3台のIDE機器をUIDE-98シリーズに取り付ける場合



[取り付け例 6] (別売オプションの弊社IDEフラットケーブルが必要です。)
4台のIDE機器をUIDE-98シリーズに取り付ける場合



2 以上で接続は終了です。

取り外したパソコンのカバーと全ての周辺機器やケーブルを元に戻します。



注意

下記の8モデルをご使用の場合は、バースト転送を『無効』に設定してお使いください。

PC-9821V166 (/S5C, /S5D, /S7C, /S7D)

PC-9821V200 (/S7C, /S7D, /SZC, /SZD)

[設定方法] (詳細は【付録1】(P54)をご覧ください。)

UIDE-98シリーズBIOS設定画面を起動します。

パソコンの電源投入直後に、接続IDE機器をチェック(デバイススキャン)しますが、そのとき画面に [Press CTRL + GRPH + Z to SETUP] と表示されます。この時[CTRL] + [GRPH] + [Z]キーを同時に押せば、[BIOS設定]画面が表示されます。

表示されたメニューから、「基本設定」を選択します。

表示された画面で、「バスマスタ」の項目を「無効」に設定します。

以上で設定は終了です。

4 . UIDE-98シリーズの動作確認及び各IDE機器の設定

UIDE-98シリーズを取り付け、IDE機器を接続したら、パソコン本体の電源を入れてください。UIDE-98シリーズは電源投入直後（Windowsなどが起動する前）に接続機器をチェックし、下記の【 表示メッセージ例】のように表示します。これを「デバイススキャン」と呼びます。

接続したIDE機器がすべて認識されているか、確認してください。

もし、認識されていないIDE機器がある場合やデバイススキャンの表示がされない場合は【付録2 困った時には】(P61)を参照してください。

表示メッセージ例

```

I/O= 6000h 6008h 600Ch C000h          ( -- )
ROM= DC00h                             ( -- )
IRQ= 3                                  ( -- )
Primary  Master : IDE  HardDisk  QUANTUM FIREBALL ST4.3A ( -- )
          Slave  : IDE  HardDisk  FUJITSU MPA3026AT      ( -- )
Secondary Master : ATAPI CD-ROM   TOSHIBA CD-ROM XM-6102B 1112
                                          ( -- )
          Slave  : ----                      ( -- )
Press CTRL + GRPH + Z to SETUP         ( -- )

```

[上記の表示メッセージの意味]

番号	表示内容	補足説明
	UIDE-98シリーズが使用するI/Oポートアドレス	上記例では6000h,6008h,600Ch,C000hを使用しています。
	UIDE-98シリーズが使用するROMセグメントアドレス	上記例ではセグメント値DC00hからBIOSROMが常駐することを表わしています。
	UIDE-98シリーズが使用するIRQ番号	上記例ではIRQ3を使用しています。
	UIDE-98シリーズのプライマリコネクタに接続のマスターIDE機器	以下の「 接続機器の表示」参照
	UIDE-98シリーズのプライマリコネクタに接続のスレーブIDE機器	以下の「 接続機器の表示」参照

UIDE-98シリーズのセカンダリコネクタに接続のマスターIDE機器	以下の「 接続機器の表示」参照
UIDE-98シリーズのセカンダリコネクタに接続のスレーブIDE機器	以下の「 接続機器の表示」参照
UIDE-98シリーズのBIOSセットアップ画面の起動方法について	[CTRL]+[GRPH]+[Z]キーでBIOS設定画面を表示します。（「BIOS設定画面」については、【付録1】(P54)参照）

接続機器の表示

UIDE-98シリーズに接続しているIDE機器の表示（前ページの ~ ）の意味

Primary Master : IDE HardDisk QUANTUM FIREBALL ST4.3A

接続位置	デバイスタイプ	種類	デバイス名など
------	---------	----	---------

接続位置

省略形	意味
Primary	プライマリ
Secondary	セカンダリ
Master	マスター
Slave	スレーブ

例) 「Primary Master」とは
UIDE-98シリーズのプライマリコネクタのマスタードライブとして接続されているIDE機器をさします。

デバイスタイプ・種類

デバイスタイプ	種類	意味
IDE	HardDisk	ハードディスク
ATAPI	CD-ROM	CD-ROM, PD等

（IDE機器が接続されていない場合は、「----」と表示されます。）

デバイス名など

接続しているIDE機器のベンダIDやプロダクトID等を表示します。

この後、各IDE機器の設定が必要です。
以下の必要なページのみをご覧ください。

Windows98/95をご使用の場合

【Windows98/95の場合の設定】(次ページ)をご覧ください。

WindowsNT4.0,WindowsNT3.51をご使用の場合

【各IDE機器の設定】(P52)をご覧ください。

Windows3.1,MS-DOSをご使用の場合

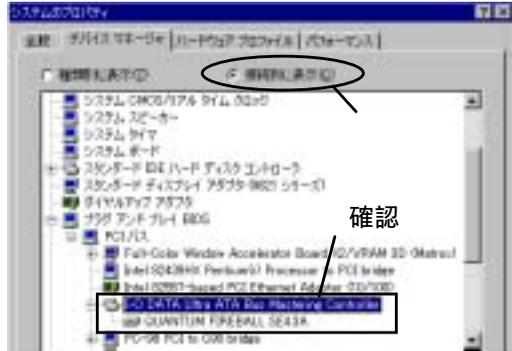
【Windows3.1,MS-DOSの場合の設定】(P49)をご覧ください。

Windows98/95への接続終了後の設定

接続終了後の確認

「接続別に表示」での「プラグ
アンドプレイBIOS」-[PCIバス]の
「I-O DATA Ultra ATA Bus
Mastering Controller」をダブル
クリックし、「UIDE-98シ
リーズに接続している各IDE機
器」が登録されている事を確認
してください。

[接続別に表示]の画面例



確認後、【各IDE機器の設定】(P52)をご覧ください。

Windows3.1,MS-DOSへの接続終了後の設定

・セットアップ概要

ここでは、UIDE-98シリーズ接続の各IDE機器を使用するためのセットアップ方法について説明します。ご使用になるIDE機器によって以下のセットアップ作業が必要になります。

()内は、弊社製品の場合

IDE周辺機器	ソフトウェアの登録	フォーマット方法
ハードディスク (HDI/98シリーズ, UHDI/98シリーズなど)	特になし。	formatコマンドで フォーマット。
弊社製CD-ROMドライブ (CDV-ABxxなど)	CD-ROMのデバイスドライバが必要*1。 (本製品添付のサポートソフトをイン ストール。)	

*1 次ページの【 弊社製CD-ROMドライブを接続している場合】を参照

ハードディスクを接続する場合、インストールは必要ありません。

弊社製CD-ROMドライブを使用する場合は、次ページの【 弊社製CD-ROMドライブを接続している場合】を参照してください。

Windows3.1,MS-DOSへの接続終了後の設定(つづき)

・ 弊社製CD-ROMドライブを接続している場合

UIDE-98シリーズに弊社製CD-ROMドライブ(CDV-ABxx等)を接続している場合は、CD-ROMドライブのインストールが必要になります。CD-ROMドライブのドライバは、本製品添付のサポートソフトをインストールしてください。各CD-ROMドライブに付属のサポートソフトはインストールしないでください。

Windows3.1へのインストール

Windows3.1にドライバをインストールします。インストールが正しく終了すると、Windows3.1やMS-DOS上でCD-ROMドライブが使用できます。

1 Windows3.1を起動し、「UIDE-98シリーズサポートソフト」をセットします。

2 『プログラムマネージャ』『アイコン』メニューの『ファイル名を指定して実行』をクリックします。

3 以下のように入力し、[OK]ボタンをクリックします。

C:¥DOS¥INSTALL

↑ サポートソフトがセットされたドライブ

4 後は画面の指示にしたがって、操作を進めてください。

以上で、インストールは終了です。インストール終了後、「UIDE-98サポートソフト」を抜いて、一度リセットしてください。



参照

CDV-ABxx等の詳細な設定に関しては、CDV-ABxxの取扱説明書を参照してください。

Windows3.1,MS-DOSへの接続終了後の設定(つづき)

MS-DOSへのインストール

MS-DOSにドライバをインストールします。インストールが正しく終了すると、MS-DOS上でCD-ROMドライブが使用できます。(前ページ【 Windows3.1へのインストール】を行った場合、この作業は必要ありません。)

1 ハードディスクからMS-DOSを起動します。



参考

- 1)Windows95の起動ドライブからMS-DOSの環境でCD-ROMドライブを使用する場合には、Windows95を起動する際に[f・8]キーを押し「以前のバージョンのMS-DOS」を選択してください。
- 2)Windows3.1が起動する場合は、終了させてください。

2 「UIDE-98シリーズサポートソフト」ディスクをセットし、次のように入力します。

(以下は、フロッピーディスクドライブがCの場合)

- 最初に、A:¥>と表示されたら C:¥・ と入力
次に、C:¥>と表示されたら CD DOS・ と入力
最後に、C:¥DOS>と表示されたら INSTALL・ と入力します。

3 UIDE-98シリーズインストールプログラムが起動します。作業を続行してよければ、・キーを押します。

4 インストール先ディレクトリが表示されます。表示されているディレクトリでよければ、・キーを押します。

5 ファイルのコピーが開始されます。

6 起動ドライブを確認して・キーを押します。

環境ファイルが変更されます。

以上で、インストールは終了です。インストール終了後、「UIDE-98サポートソフト」を抜いて、一度リセットしてください。

各IDE機器の設定

- ・ 弊社製CD-ROMドライブ(CDV-ABxx等)やPDドライブ(PD-AB8)を使用する場合特に設定等はありません。そのままご使用になれます。

(PD-AB8付属のサポートソフトでドライバのインストールをする必要ありません。また、CD Player等のインストール方法やPDメディアのフォーマット手順等に関しては、各取扱説明書を参照してください。)

- ・ 弊社製CD-ROMチェンジャ(CDC-AB86)を使用する場合

CDC-AB86取扱説明書を参照し、「CDC-AB86サポートソフト」のインストールを行ってください。

「CDC-AB86サポートソフト」のインストール後に、必ず、「UIDE-98シリーズサポートソフト」に添付されているCDC-AB86用の更新されたドライバを以下の手順でインストールしてください。

Windows98/95を起動し、フロッピーディスクドライブに「UIDE-98シリーズサポートソフト」をセットします。

『マイコンピュータ』 『3.5インチFD』 『Win95』 『AB86UP.BAT』をダブルクリックします。ドライバのインストールが始まります。

ドライバのインストール後、パソコンを再起動してください。

以上でインストールは終了です。

各IDE機器の設定(つづき)

・ハードディスクのフォーマットについて

フォーマット済みのハードディスクの場合は、UIDE-98シリーズに接続してそのままご使用になれます。

フォーマットされていないハードディスクの場合(購入後、すぐにUIDE-98シリーズに接続した場合等)や再フォーマットを行いたい場合には、以下の手順でフォーマットしてください。(フォーマット方法(DISKINITコマンドを除く)の詳細は、各ハードディスクの取扱説明書を参照してください。)

UIDE-98シリーズのBIOSメニューの「データの消去」または「ディスク初期化」によるディスク全体の初期化。(【付録1】(P54)参照)

DISKINITコマンドによる初期化はできません。

FDISKコマンドによる領域確保。

フォーマットコマンドによる各領域の初期化。

『マイコンピュータ』アイコンをダブルクリック後、追加されたドライブアイコンを右クリックし、「フォーマット」を選択して初期化してください。



注意

1)フォーマットを行う場合は、パソコンに標準装備のハードディスクと間違わないようにご注意ください。

2)Windows98/95で「領域確保」した領域(パーティション)をMS-DOS用の領域としたい場合(以下の、)、MS-DOSのFORMATコマンドで「領域開放」を行った後、再度その領域の「領域確保」を行ってフォーマットしてください。

Windows98/95で「領域確保」した領域をMS-DOS起動用としたい場合

Windows98/95で「領域確保」した領域にMS-DOSから正常にアクセスできない場合

付録 1 BIOSの設定

ここでは、UIDE-98シリーズに接続した各IDE機器を使用するためのUIDE-98シリーズのBIOSの設定方法について説明します。通常各設定は変更する必要はありません。



注意

PC-9821 V166(/S5C, /S5D, /S7C, /S7D), V200(/S7C, /S7D, /SZC, /SZD)の8機種では、バースト転送がご利用いただけません。BIOS設定メニュー『基本設定』の「バースト転送」を『無効』に設定してお使いください。
(その場合、転送速度が低下しますが、『無効』にしないとパソコンが起動しない等の不具合が発生します。)

BIOS設定画面の起動方法

UIDE-98シリーズはパソコンの電源投入直後に、接続IDE機器をチェック(デバイススキャン)しますが、そのとき画面に[Press CTRL + GRPH + Z to SETUP]と表示されます。この時[CTRL] + [GRPH] + [Z]キーを同時に押せば、以下の[BIOS設定]画面が表示されます。

[BIOS設定]画面

UIDE-98 BIOS Setup Version x.xx Copyright(C) 1997 I-O DATA DEVICE, INC.

#0 Pri MS	IDE	HardDisk	IBM DAQA-33240	R60R	P4 D2
#1 Pri SL	IDE	HardDisk	QUANTUM FIREBALL ST 4.3A	AFO.	P4 D2 U2
#2 Sec MS	ATAPI	CD-ROM	TOSHIBA CD-ROM XM-6102B	1112	P3 D2
#3 Sec SL	-----				

メインメニュー
基本設定
デバイス設定
ユーティリティ
設定保存終了
終了

BIOS設定画面について

接続機器一覧の表示について

[BIOS設定]画面の上段には、UIDE-98シリーズに接続している各IDE機器についての情報が表示されます。

#0	Pri	MS	IDE	HardDisk	IBM DAQA-33240	R60R	P4 D2
#1	Pri	SL	IDE	HardDisk	QUANTUM FIREBALL ST 4.3A	AF0.	P4 D2 U2
#2	Sec	MS	ATAPI	CD-ROM	TOSHIBA CD-ROM XM-6102B	1112	P3 D2
#3	Sec	SL	-----				

接続位置

省略形	意味
Pri	プライマリ
Sec	セカンダリ
MS	マスタ
SL	スレーブ

例) 「Pri MS」とは
UIDE-98シリーズのプライマリコネクタのマスタドライブとして接続されているIDE機器をさします。

デバイスタイプ・種類

デバイスタイプ	種類	意味
IDE	HardDisk	ハードディスク
ATAPI	CD-ROM	CD-ROM, PD, CD-ROMチェンジャ等

(IDE機器が接続されていない場合は、「-----」と表示されます。)

デバイス名など

接続しているIDE機器のベンダIDやプロダクトID等を表示します。

設定可能な転送モード

接続しているIDE機器がサポートしている転送モードを表示します。

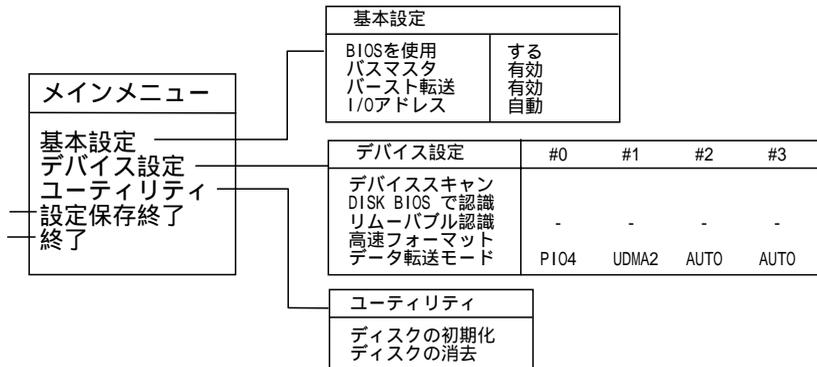
(各転送モードにおける転送速度に関しては、【付録4 用語解説】(P75)参照)

省略形	意味
Px	PIOモード (xは0~4)
Dx	DMAモード (xは0~2)
Ux	Ultra DMA/33モード (xは0~2)

例) 「P4 D2 U2」の表示は、
PIOモード4, DMAモード2,
Ultra DMA/33 モード2の
転送モードをサポートしていることを表わしています。

メインメニューの設定項目

UIDE-98シリーズのBIOSメニュー（メインメニュー）には下図の5つの項目があります。各項目の詳細は次ページ以降を参照してください。



基本設定

UIDE-98シリーズボード全体に関する設定を行います。
 （以下の「選択肢」での[]は出荷時設定値。）

項目	選択肢	内容
BIOSを使用	[する], しない	<p>本BIOSを組み込むかどうかを指定します。 通常は「する」に設定してください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>注意 「しない」に設定した場合の注意事項 Windows3.1, MS-DOSからは利用できなくなります。 UIDE-98シリーズに接続したハードディスクを 起動ドライブにすることもできません。 Windows98/95/NTでは、設定情報のみ使用されます デバイススキャンの画面を含め、一切の表示を 行いません。（再度表示を行うには、メモリカ ウント直後に、[CTRL]+[GRPH]+[Z]キーを同時に 押せば「BIOS設定」画面を起動できます。）</p> </div>
バスマスタ	[有効], 無効	<p>UIDE-98シリーズでバスマスタ機能(DMA転送)の「有効」 「無効」を設定します。 「無効」にした場合は「デバイス設定」の「データ転 送モード」の内容に関係なくバスマスタ転送は行いま せん。（PIO転送しか行いません。） また「無効」の場合は、バースト転送も「無効」となります。</p>

バースト 転送	[有効], 無効	UIDE-98シリーズのバースト転送の「有効」「無効」を設定します。 (「バスマスタ」が「無効」の場合は、バースト転送も「無効」となります。) 「無効」にした場合は、転送速度が低下します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">  注意 下記の8モデルをご使用の場合は、必ず『無効』に設定してお使いください。 PC-9821 V166 (/S5C, /S5D, /S7C, /S7D) PC-9821 V200 (/S7C, /S7D, /SZC, /SZD) </div>
I/Oアド レス	[自動], 任意のアド レス	UIDE-98シリーズが使用するI/Oポートアドレスを設定します。通常は「自動」のまま変更しないでください。

デバイス設定

UIDE-98シリーズに接続している各IDE機器に対する設定を行います。

項目	選択肢	内容
デバイス キャン	[], - 認識する - 認識しない 該当する接続位置のIDE機器を認識するかどうかを設定します。特定のIDE機器を検索したくない場合や、未接続のIDE機器の検索を省略して、起動を速くしたい場合などに、「-」にします。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">  注意 「-」に設定した場合の注意事項 DISK BIOSでは使用できなくなります。 Windows98/95/NTでも、そのIDE機器の検索を行いません。 </div>
DISK BIOS で認識	[], - 認識する - 認識しない 該当するIDE機器(ATAPI機器は除く)をDISK BIOSで認識させるかどうかを設定します。 FDISK形式のディスクを、Windows98/95/NTで使用したい場合やASPI経由で使用したい場合などは、「-」に設定します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">  注意 「-」に設定した場合の注意事項 DISK BIOSでは使用できなくなります。 Windows98/95/NTでは、NEC形式のディスクを正常に認識できなくなります。 </div>
リムーバ ブル認識	, [-] 認識させる - 認識させない

		<p>MOなどのリムーバブルディスクを固定ディスクとしてDISK BIOSで認識させるかどうかを設定します。 通常、リムーバブルディスクは、FDISK形式やスーパーフロッピー形式でフォーマットされているため、出荷時は「-」になっています。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">  <p>「-」にする場合には、前述の「デバイススキャン」及び「DISK BIOSで認識」での該当するIDE機器の設定が「-」になっている必要があります。</p> </div> <p style="font-size: small; margin-top: -10px;">注意</p>
高速フォーマット	[], -	<p>..... 高速で行う - 高速では行わない</p> <p>該当するIDE機器のフォーマットを高速で行うかどうかを設定します。 この設定で、MS-DOSのFORMAT.EXE、Windows98/95のDISKINIT,FDISKが高速化されます。</p>
データ転送モード	[AUTO], PIOx, DMAx, UDMAx,	<p>AUTO..... 自動選択 PIOx..... PIO転送モード0~4 DMAx..... DMA転送モード0~2 UDMAx..... Ultra DMA/33転送モード0~2</p> <p>該当するIDE機器の転送速度を設定します。 (各転送モードにおける転送速度に関しては、【付録4用語解説】(P75)参照) 通常は「AUTO」(出荷時設定)に設定してください。 自動的に最適なモードを選択しますので、通常より遅い転送モードを選ぶ場合のみ設定を変更してください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">  <p>一部の機種では、Ultra ATA対応のIDE機器でも「UDMA2」(Ultra DMA/33モード2)が使用できない場合があります。 (出荷時設定の「AUTO」では、「UDMA1」に設定しています。)</p> </div> <p style="font-size: small; margin-top: -10px;">注意</p>

ユーティリティ



注意

1)本ユーティリティの以下の2つの機能はハードディスクの内容を消去します。注意して選択してください。

2)Windows98/95でハードディスクを初期化する場合は、DISKINITコマンドが使用できませんので本ユーティリティで初期化を行ってください。その後、FDISKコマンドで領域確保し、フォーマットコマンドでフォーマットしてください。(MS-DOSでハードディスクを初期化する場合は、MS-DOSのFORMATコマンドで「初期化」「領域確保」を行ってください。以下の2つの機能での初期化直後に、MS-DOSのFORMATコマンドでの「領域確保」は使用できません。再度MS-DOSのFORMATコマンドの「初期化」「領域確保」が必要です。)

項目	内容
ディスクの初期化	<p>ハードディスクの初期化を行います。 ハードディスクの完全初期化と代替処理が行われます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ハードディスクを完全初期化するため、初期化には時間がかかります。 例)弊社製UHD1-3.2Gでは、およそ1時間かかります。</p> </div>
ディスクの消去	<p>ハードディスクの先頭セクタの消去を行います。 ハードディスクの内容が不正で、OSが起動しない場合や、フォーマットコマンドが実行できない場合に実行してください。</p>

設定保存終了

機能	
設定した情報を保存して、BIOS設定画面を終了します。	
 注意	<p>16回に1回、保存に時間がかかります。 この時、電源断やリセットをしてしまうと、BIOS ROMが破壊された状態になるので、ROMUP.EXEで再度BIOS ROMを書き込む必要があります。(ROMUP.EXEの起動方法等は、次ページの「BIOSの修復」を参照してください。)</p>

終了

機能
設定した情報を破棄して、BIOS設定画面を終了します。

BIOSの修復やアップデート

本製品には、BIOSが何らかの原因で破壊された場合に修復を行うためのユーティリティ(ROMUP.EXE)があります。

[起動方法]

1 パソコンをMS-DOS(モード)で起動します。

(Windows98/95の場合はMS-DOSモードで再起動してください。

WindowsNTの場合は、MS-DOSの起動用ディスクを用意して起動用ディスクから起動してください。

Windows3.1の場合は、Windows3.1を終了してください。)



注意

1)Windows上のDOS窓からROMUP.EXEを起動しないでください。

2)既にWindows98/95が起動している場合には、MS-DOSモードで再起動してください。(タスクバー上の[スタート]ボタンを押して、「Windowsの終了」を選択します。ダイアログから「MS-DOSモードでコンピュータを再起動する」を選択して、[はい]ボタンを押します。)

2 「UIDE-98シリーズサポートソフト」ディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。

3 次のように入力して、ROMUP.EXEを起動します。BIOSの修復を行います。

(以下は、フロッピーディスクドライブがCドライブの場合)

最初に A:¥>と表示されたら C:¥・ と入力

次に C:¥>と表示されたら CD DOS・ と入力

最後に C:¥DOS>と表示されたら ROMUP・ と入力します。

4 BIOS修復後、一度パソコンの電源を切り、再度電源を入れてパソコンを起動してください。

付録 2 困った時には

パソコン起動時のトラブル

[対象OS : Windows98/95, WindowsNT, Windows3.1, MS-DOS]

UIDE-98シリーズ取り付け後、パソコンが起動しない。

UIDE-98シリーズが動作しない。

また、Windows98/95の「システムのプロパティ」で“！”マークがついている。

原因1 正しく取り付けられていない。

対処 パソコンの電源を切り、再度起動用ハードディスクのIDEフラットケーブルや電源ケーブルが取り付けられているか、外れていないかを確認してください。また、IDE機器のジャンパ設定が間違っていないかも確認してください。

原因2 UIDE-98シリーズのBIOSを使用しないように設定されている。

対処 BIOSを使用する設定にしてください。
(【付録1 BIOSの設定】(P54)参照)

原因3 UIDE-98シリーズに割り当て可能なIRQ、I/Oポートアドレスなどのリソースが不足している。

対処 UIDE-98シリーズの使用できるリソースを確保してください。(他の拡張ボードを取り外す、または使用していない本体内蔵機能を切り離すなど。)

原因4 他のボードとリソースが重複している。

対処 UIDE-98シリーズを接続したPCIセットアップユーティリティの設定を「自動」にしてください。(詳細は【2.1 パソコン環境の確認】(P14)を参照) プラグ&プレイに対応していないボードがある場合には、そのボードのリソース割り当てを変更してください。(リソースの変更方法に関しては、そのボードやパソコン本体の取扱説明書を参照してください。) リソース割り当ての変更ができない場合には、そのボードを取り外し、UIDE-98シリーズと必要に応じて使い分けてください。

原因5 PC-9821シリーズで汎用拡張スロット用のプラグ&プレイ対応ボードを使用すると、ボードを取り外した後もリソース情報が記憶されているため、リソースを正しく設定できないことがあります。

対処 PCIセットアップディスク(PCIセットアップユーティリティ)を使用し、取り外したボードのリソース情報を削除してから再度パソコンを起動してください。(方法はパソコン本体の取扱説明書を参照してください。)

[対象OS : Windows98/95,WindowsNT,Windows3.1,MS-DOS]

パソコンの電源を入れても、デバイススキャンが表示されない
(UIDE-98シリーズのBIOSが組み込まれない)

原因1 UIDE-98シリーズが正しく取り付けられていない。

対処 パソコンの電源を切り、UIDE-98シリーズの取り付けを確認してください。

原因2 BIOSを使用しないように設定されている。

対処 BIOSを使用するように設定してください。
(【付録1 BIOSの設定】(P54)参照)

原因3 拡張ROMエリアの空きが不足している。

対処 拡張ROMエリアの領域を使用する他のボードの使用やプログラムの登録を中止したり、使用していない本体内蔵機能を切り離すなどを行って拡張ROMエリアの領域を開放してください。

原因4 他のボードとリソースが重複している。

対処 プラグ&プレイに対応していないボードがある場合には、そのボードのリソース割り当てを変更してください。(リソースの変更方法に関しては、パソコン本体の取扱説明書を参照してください。)
リソース割り当ての変更ができない場合には、そのボードを取り外し、UIDE-98シリーズと必要に応じて使い分けてください。

原因5 BIOSのファームウェアが壊れてしまった。

対処 MS-DOSのコマンドプロンプトからROMUP.EXEを起動してBIOSを修復してください。詳細は、「BIOSの修復やアップデート」(P60)を参照してください。

[対象OS : Windows98/95, WindowsNT, Windows3.1, MS-DOS]

デバイススキャン時に機器名が表示されなかったり、OS上からも認識されない。またはハングアップする

原因1 IDE機器が正しく取り付けられていない。

対処 パソコンの電源を切り、IDE機器の接続ケーブル（IDEフラットケーブルや電源ケーブル）が外れていないか確認してください。

原因2 接続IDE機器のジャンプスイッチの設定に誤りがある。

対処 パソコンの電源を切り、【2. UIDE-98シリーズに接続するIDE機器の設定】(P34)を参照し、各IDE機器のジャンプスイッチの設定を確認してください。

原因3 UIDE-98シリーズのBIOS設定でIDE機器を認識しないように設定している。

対処 UIDE-98シリーズのBIOS設定での「デバイス設定」で該当するIDE機器のデバイススキャンを「」（認識する）に設定してください。
（【付録1 BIOSの設定】(P54)参照）

原因4 接続IDE機器の設定に誤りがある。

対処 BIOS設定でデバイススキャンを行わない設定にして、他に原因がないか調べてください。（【付録1 BIOSの設定】(P54)参照）

原因5 パソコン本体付属のPCIセットアップディスク（PCIセットアップユーティリティ）で、PCIスロットのリソースが「固定」に設定されている。

対処 PCIセットアップディスク（PCIセットアップユーティリティ）のPCIスロットのリソースを「自動」に設定してお試しください。（設定方法についてはパソコン本体の取扱説明書を参照してください。）

[対象OS : Windows98/95, WindowsNT, Windows3.1, MS-DOS]

パソコン本体に接続したい標準HDDをUIDE-98シリーズに接続すると、パソコン本体に接続したCD-ROMが認識されない。または、パソコンが起動しなくなる。

原因 PC-9821シリーズの仕様により、パソコン本体にハードディスクが接続されていない状態でCD-ROMのみ接続されていると発生します。

対処 パソコン本体にハードディスクを最低1台は接続してください。

[対象OS : Windows98/95, WindowsNT, Windows3.1, MS-DOS]

デバイススキャンではUIDE-98シリーズに接続しているIDE機器が表示されるが、UIDE-98シリーズのBIOS設定画面で、接続しているIDE機器が表示されない。

原因 UIDE-98シリーズのデバイススキャンが完了する前に、[CTRL]+[GRPH]+[Z]キーを押すと、BIOS設定に変わるタイミングが早すぎるために、接続しているIDE機器が認識されなくなります。

対処 UIDE-98シリーズのデバイススキャン完了後に、[CTRL]+[GRPH]+[Z]キーを押すようにしてください。

[対象OS : Windows98/95, WindowsNT, Windows3.1, MS-DOS]

デバイススキャン時に「Primary Master : Checking」と表示されたまま止まってしまう

原因 パソコン本体付属のPCIセットアップディスク（PCIセットアップユーティリティ）で、PCIスロットのリソースが「固定」に設定されている。

対処 PCIセットアップディスク（PCIセットアップユーティリティ）のPCIスロットのリソースを「自動」に設定してお試しください。（設定方法についてはパソコン本体の取扱説明書を参照してください。）
また、リソース（IRQ,ROMアドレス,I/Oポート）が他の機器と競合しないようにPCIセットアップディスク（PCIセットアップユーティリティ）で設定してください。

[対象OS : Windows98/95]

Windows起動時に「レジストリエラー」や「COMMAND.COMが見つからない」等のエラーが発生し、Windowsが起動しない。

対処 UIDE-98 BIOS設定メニューの『デバイス設定』『データ転送モード』の項目を「AUTO」または「UDMA1」（Ultra DMA Mode1）等に設定してお試しください。

使用中のトラブル

[対象OS : Windows98/95, WindowsNT, Windows3.1, MS-DOS]

パソコンが起動しなくなった

原因1 他の周辺機器を拡張スロットに増設した。

対処 増設した周辺機器と割り込みやI/Oポートアドレスなどが重複している可能性があります。【付5.1 パソコン環境】(P77)や増設した周辺機器の取扱説明書を参照して、設定を確認してください。

原因2 パソコン本体が故障した。

対処 UIDE-98シリーズを取り外しても起動できない場合はパソコンが故障している可能性があります。パソコンのご購入先などにお問い合わせください。

[対象OS : Windows98/95, WindowsNT, Windows3.1, MS-DOS]

UIDE-98シリーズを使用中に動作が不安定になる

原因1 IDE機器の転送モードの「UDMA2」(Ultra DMA/33転送モード2)を使用できない機種があります。

対処 転送速度を下げて(「UDMA1」等に変えて)みてください。
(【付録1 BIOSの設定】(P54)参照)

原因2 PCIバススロットが不安定になっている。

対処 UIDE-98シリーズを接続しているPCIバススロットの位置を変えてみてください。

[対象OS : Windows98/95]

ドライバのインストールに失敗したが、再インストールしようとする、「新しいハードウェア」等の画面が表示されない

対処 『スタート』 『設定』 『コントロールパネル』 『システム』を開き[デバイスマネージャ]タブに「PCI SCSI Bus Controller」と表示されている場合は、これを[削除]ボタンをクリックし、削除してから再起動してください。

[対象OS : Windows98/95]

UIDE-98シリーズにPD-AB8またはMOF-AB640Hを接続したが、リムーバブルドライブとしてマイコンピュータに表示されない

対処

『スタート』 『設定』 『コントロールパネル』 『システム』を開きます。

[デバイスマネージャ]タブをクリックします。

表示された画面の「ディスクドライブ」に各ドライブ名が表示されていますので該当するドライブを選択(クリック)し、[プロパティ]ボタンをクリックします。

表示された画面の「予約ドライブ」の項目にドライブ番号を入力(選択)し、パソコンを再起動してください。

[対象OS : Windows95]

「システムのプロパティ」の[デバイスマネージャ]タブで、接続したIDE機器のプロパティを見ると「このデバイスには、ドライバファイルが必要でないか、または読み込まれていません。」と表示され、ドライバファイル名が表示されない

対処

Windows95のバージョンを確認してください。

確認方法：『スタート』 『設定』 『コントロールパネル』 『システム』を開き[情報]タブの「システム：」で確認してください。（詳細はP22）

・Windows95のバージョンが「4.00.950 B」または「4.00.950 C」の場合
“！”マークがない場合は正常です。そのままご利用ください。

・Windows95のバージョンが「4.00.950」または「4.00.950a」の場合
[ドライバ]タブの[ドライバの更新]ボタンをクリックし、画面の指示に従って、各製品添付のサポートソフトからドライバの更新を行ってください。

[対象OS : Windows98/95]

UIDE-98シリーズに接続したPD-AB8にアクセス中、ハングアップする

対処

UIDE-98シリーズのBIOS設定でPD-AB8に対しての転送モードを「PIO3」に設定してください。（【付録1 BIOSの設定】(P54)参照）

[対象OS : WindowsNT4.0]

UIDE-98シリーズに接続したハードディスクでWindsowsNT4.0を起動してもSCSIインターフェイスに接続したハードディスクがAドライブとなってしまう

原因 WindowsNT4.0の仕様により、パソコン本体のBIOS設定やPCIスロットの実装順番、ドライバの組み込み手順等には依存せず、ドライブ番号を自動的に割り当てます。

対処 ディスクアドミニストレータで、各ハードディスクのドライブ番号を変更する必要があります。ディスクアドミニストレータの操作方法等については、WindowsNT4.0の取扱説明書を参照してください。

[対象OS : Windows98/95,WindowsNT,Windows3.1,MS-DOS]

UIDE-98シリーズに接続したハードディスクにアクセスしても、本体のハードディスクアクセスランプが点灯しない

原因 UIDE-98シリーズに接続したハードディスクにアクセスしても、パソコン本体のハードディスクアクセスランプを点灯させることはできません。

[対象OS : Windows98/95,WindowsNT,Windows3.1,MS-DOS]

UIDE-98シリーズにCD-ROMドライブを接続した際、MS-DOS(モード)で認識されなくなる

対処 一部の CD-ROM アプリケーションでは、/D:で指定するデバイス名を直接参照して動作するために、UIDE-98シリーズのインストーラが設定したデバイス名では動作しない場合があります。このような場合には、デバイス名を 'CD_101' としてください。また、CD-ROMエクステンションに指定するデバイス名も同時に 'CD_101' としてください。

CONFIG.SYSの設定例)

DEVICE = UIDECLD.SYS /D:CD_101

AUTOEXEC.BATの設定例)

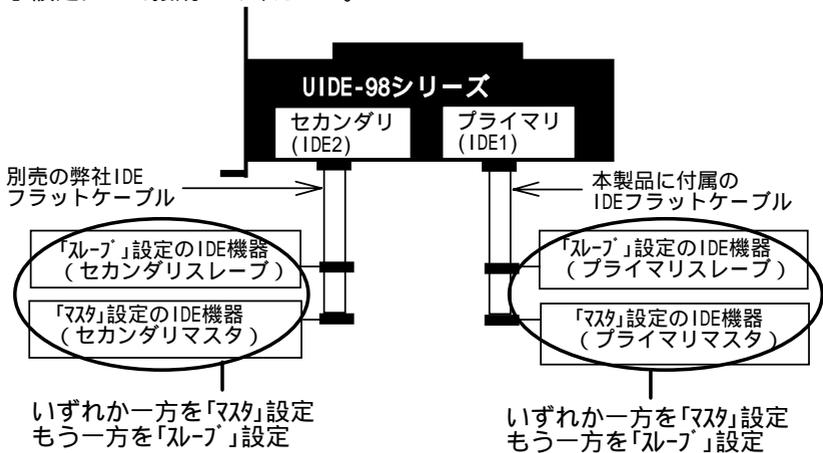
MSCDEX /D:CD_101

付録 3 Enhanced IDEについて

Enhanced IDE機器について

UIDE-98シリーズには「プライマリ」と「セカンダリ」があります。IDEフラットケーブルを使用してそれぞれ2台ずつ計4台までのIDE機器を接続することができます。

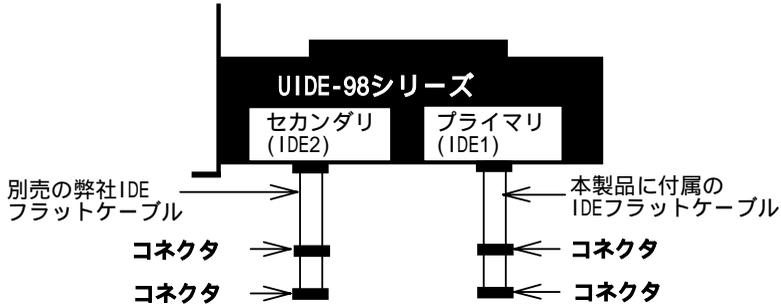
ただし、それぞれのケーブルに接続するIDE機器は「マスタ」または「スレーブ」の設定が必要です。例えば「プライマリコネクタ」に2台のIDE機器を接続する場合、一方を「マスタ」にもう一方を「スレーブ」に設定して接続する必要があります。ただし、1台だけを接続する場合は、「マスタ」または「シングル」設定にして接続してください。



また、各コネクタ接続で「マスタ」「スレーブ」設定したIDE機器を次ページの表の様に呼びます。

UIDE-98シリーズに接続可能なIDE機器数

パソコンにスペースと電源コネクタや電源容量に余裕があれば、パソコン本体に接続しているIDE機器以外に、UIDE-98シリーズに最大4台(プライマ리에2台、セカンダ리에2台)接続できます。(以下のコネクタ ~ にそれぞれ1台ずつ接続)

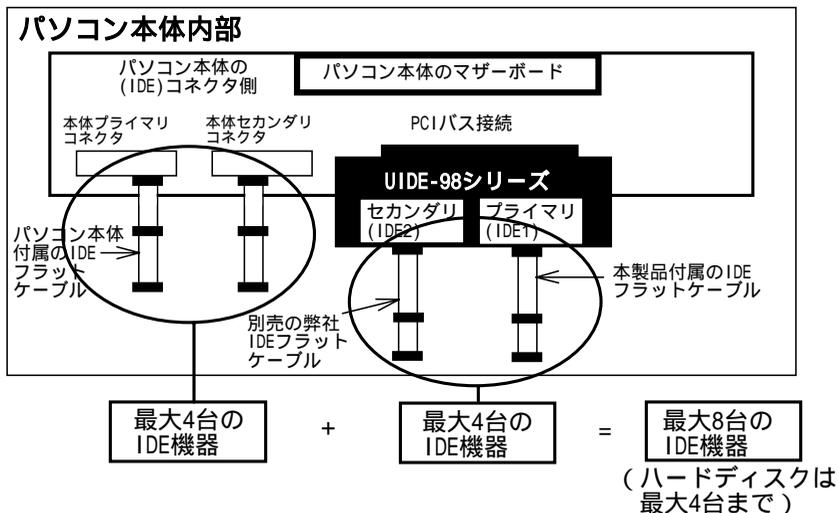


パソコン本体のIDEコネクタとUIDE-98シリーズを合わせて最大8台までのIDE機器を接続できます。



注意

- 1)ハードディスクは、パソコン本体のIDE + UIDE-98シリーズで最大4台までしか接続できません。(パソコン本体内蔵の(IDE)コネクタ接続とUIDE-98シリーズ接続のハードディスクの合計数が最大4台)
- 2)接続台数によっては、電源の容量不足のため動作が不安定になる場合があります。



注意

UIDE-98シリーズにIDE機器を接続する場合、2台目までは付属のIDEフラットケーブルで接続できます。(ただし、接続機器の位置によっては、付属のIDEフラットケーブルだけでは接続できない場合があります。その場合は、別途IDEフラットケーブル(弊社製「FL-I40-L」)が必要となります。)

また、3台目以降を接続する場合、別途IDEフラットケーブル(弊社製「FL-I40-L」)が必要です。オプション品をお買い求めください。

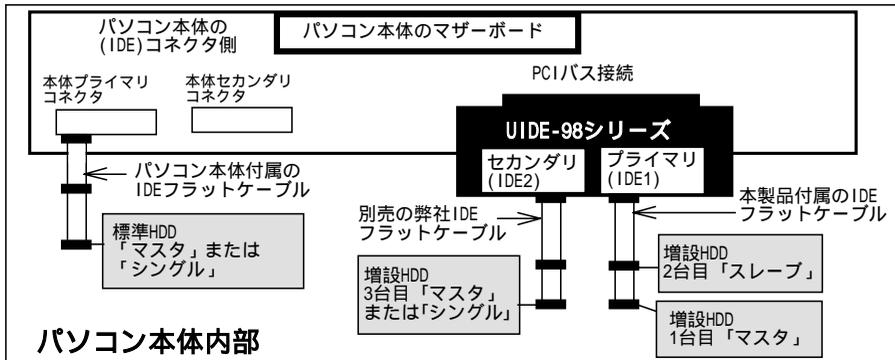
(別売オプションについては、P4参照)

UIDE-98シリーズに接続するIDE機器の優先順位

UIDE-98シリーズに接続するIDE機器は、以下の順にパソコンに認識されます。

1. 「プライマリマスタ」のIDE機器
2. 「プライマリスレーブ」のIDE機器
3. 「セカンダリマスタ」のIDE機器
4. 「セカンダリスレーブ」のIDE機器

例えば標準HDD以外に増設HDD3台をUIDE-98シリーズに接続した場合のドライブ名は以下の表のようになります。



～ はドライブ認識の優先順位



注意

ハードディスクのドライブ名の割り当ては、UIDE-98シリーズよりもパソコン本体のIDEインターフェイスの方が優先されます。

接続機器と接続位置	接続台数	ハードディスク内の領域(パーティション)数	ドライブ名
パソコン本体接続のハードディスク	1	2	A, B
増設ハードディスク1台目(プライマリマスタ)	1	1	C
増設ハードディスク2台目(プライマリスレーブ)	1	1	D
増設ハードディスク3台目(セカンダリマスタ)	1	1	E

ドライブの割り当て順位について

通常、ドライブ（ドライブ名、ドライブ番号）の割り当ての優先順位は以下の通りとなります。（フロッピーディスクから起動する場合は、フロッピーディスクドライブが優先(Aドライブ)されます。）

- パソコン本体のハードディスク用コネクタ接続のハードディスク
- UIDE-98シリーズに接続しているハードディスク
- SCSIボードに接続しているハードディスク
- フロッピーディスクドライブ
- CD-ROMドライブ

（以下はUIDE-98シリーズに増設HDDを1台接続した場合のドライブ名の例です。）

接続機器と接続位置	接続台数	ハードディスク内の領域(パーティション)数	ドライブ名
パソコン本体接続のハードディスク	1	2	A B
UIDE-98シリーズ接続のハードディスク	1	1	C
SCSI接続しているハードディスク	1	1	D
フロッピーディスクドライブ	1	-	E
CD-ROMドライブ	1	-	F



注意



参考

- 1)ハードディスクのドライブ名の割り当ては、UIDE-98シリーズよりもパソコン本体のIDEインターフェイスの方が優先されます。
- 2)UIDE-98シリーズにハードディスクを接続した場合は以下の優先順位でドライブ名が割り当てられます。
「プライマリマスタ」「プライマリスレーブ」「セカンダリマスタ」「セカンダリスレーブ」

UIDE-98シリーズに新しく購入した増設HDDを取り付けた場合の注意事項

UIDE-98シリーズに新しく購入した増設HDDを1台接続しフォーマットした後は、ドライブ名(番号)が変更される周辺機器があります。

(SCSI接続のハードディスクやCD-ROMドライブ等)



注意

- 1) SCSI接続のハードディスクのドライブ名が変更されると、接続前に起動ドライブとして使用していたSCSI接続のハードディスクから起動できなくなる場合があります。
- 2) CD-ROMのドライブ番号を指定したバッチファイルなどがある場合で、ドライブ番号が変更された場合は新しいドライブ番号に変更してください。また、CONFIG.SYSにLASTDRIVEの設定が必要となる場合があります。

例) 以下の表はUIDE-98に新しく購入した増設HDDを接続した場合のドライブ名の変化を表わしています。

(以下は増設HDDを2つの領域に分割した場合です。)

接続機器と接続位置	接続台数	ハードディスク内の領域(パーティション)数	増設IDE接続前のドライブ名	増設IDE接続後のドライブ名
パソコン本体接続のハードディスク	1	2	A B	A B
UIDE-98シリーズ接続のハードディスク	1	2	-	C D
SCSI接続しているハードディスク	1	1	C	E
フロッピーディスクドライブ	1	-	D	F
CD-ROMドライブ	1	-	E	G

上記表では、増設HDDの接続前後では以下の各ドライブ名が変更されているのが分かります。

- ・SCSI接続しているハードディスク
- ・フロッピーディスクドライブ
- ・CD-ROMドライブ

付録 4 用語解説

Ultra ATA

IDE規格の拡張仕様。Ultra ATAでは、最大転送速度は33MB/sec(理論値)とし、また転送されるデータの信頼性を向上させるためにCRCのエラーチェックも行うようにしている。

Ultra ATAの転送モード(方式)には、以下の3種類があります。

(以下の転送速度はすべて理論値)

Ultra DMA/33転送方式(モード)0~2

モード0 (最大転送速度16.6MB/sec)

モード1 (最大転送速度25MB/sec)

モード2 (最大転送速度33.3MB/sec)

マルチワードDMA転送方式(モード)0~2

モード0 (最大転送速度4.2MB/sec)

モード1 (最大転送速度13.3MB/sec)

モード2 (最大転送速度16.6MB/sec)

PIO転送方式(モード)0~4

モード0 (最大転送速度3.3MB/sec)

モード1 (最大転送速度5.2MB/sec)

モード2 (最大転送速度8.3MB/sec)

モード3 (最大転送速度11.1MB/sec)

モード4 (最大転送速度16.6MB/sec)

Ultra DMA/33転送方式

Ultra ATAで規定されている転送方式。最大転送速度は33.3MB/sec(理論値)です。PIO転送方式に比べてCPU占有率が低いため、ビデオCDなどの再生も大変スムーズです。

DMA転送方式

CPUを介すことなく、直接デバイスからシステムのメモリ(またはその逆)へのデータ転送を行う方式。PIO転送方式に比べてCPU占有率が低いため、ビデオCDなどの再生も大変スムーズです。

PIO転送方式

CPUに直接I/Oポートをアクセスさせて、デバイスとのデータ転送を行う方式。そのため、CPUにかかる負担は重くなります。

付録 5 仕様

ここではパソコンの環境状況、及びUIDE-98シリーズのハードウェア仕様について記述します。

付5 1 パソコン環境 ●

本製品をプラグ&プレイに対応していないボードと共用する場合に参照してください。

割り込みレベルとDMA使用状況（一例）

パソコン本体	割り込みレベル(INT)							DMA チャンネル					
	0	1	2	3	41	42	5	6	無し	#0	#1	#2	#3
マウス													
IDE 内蔵ハードディスク													
内蔵サウンド機能													
内蔵フロッピーディスク I/F													
	640KB												
	1MB/1.44MB												
TVチューナボード													
FAXモデム													
2nd CCU													
赤外線通信機能													

出荷時設定（パソコン本体のマニュアルなどを参照してください。 の部分は解放可能な場合があります。）

解放可能（PC-9821シリーズのシステムセットアップメニューまたはディップスイッチで、フロッピーディスクモードを「1MB」に固定 {SW3-1 ON, SW3-2 OFF} すると解放されます。この場合でも 2DD(640KB/720KB) のディスクはアクセスできます。）

- ・各種ボードの割り込みレベルとDMA使用状況（一例）

拡張ボード	割り込みレベル(INT)								DMA チャンネル				
	0	1	2	3	4	2	5	6	無し	#0	#1	#2	#3
LA-98シリーズ LANアダプタボード													
MPG-98 MPEG再生ボード													
GV-98 GV-98X ビデオキャプチャーボード													
SB16/98 サウンドブラスター													
RSA-98シリーズ 高速RS-232C拡張ボード													
PC-9801-07/27 HD I/F													
PC-9801-26/K サウンドボード													
PC-9801-73/86 サウンドボード													

出荷時設定 (YM2203用の出荷時設定 [YM2203使用時のみ有効])

変更可能 (YM2203用の変更可能設定 [YM2203使用時のみ有効])

・各種ボードのI/Oポートアドレス使用状況 (一例)

拡張ボード	I/Oポートアドレス						その他
	xxD0h	xxD2h	xxD4h	xxD6h	xxD8h		
LA-98シリーズ LANアダプタボード	0xD0h	xxD2h	xxD4h	xxD6h	xxD8h		
MPG-98 MPEG再生ボード	xxD0h						
GV-98 GV-98X ビデオキャプチャーボード				xAD6h			
GV-98SB ビデオハードレイトボード	0xD0h		0xD4h		0xD8h	0xDC	
SB16/98 サウンドブラスター		xxD2h	xxD4h	xxD6h	xxD8h	xxDAh ~ xxDEh	
GA-1024A/1280A	xxD0h		xxD4h		xxD8h	xxDCh ~ xxECh	
GA-98NB /C		3xD2h	3xD4h	3xD6h	3xD8h		
RSA-98シリーズ	xxD0h						
INS-B64D	0xD0h		0xD4h		xxD8h	xx00h ~ xxFCh	

■ 出荷時設定

拡張ボード	備考
LA-98シリーズ LANアダプタボード	xx=00h ~ 1Fh
MPG-98 MPEG再生ボード	xx=05h ~ F5h (10h単位)
GV-98 GV-98X ビデオキャプチャーボード	x=0h ~ Fh
GV-98SB ビデオハードレイトボード	x=4h ~ 7h
SB16/98 サウンドブラスター	xx=04h ~ 81h
GA-1024A/1280A	xx=00h ~ 1Fh
GA-98NB /C	x=0h ~ 2h
RSA-98シリーズ	xx=00h ~ FFh
INS-B64D	xx=00h ~ FFh

併用する拡張ボードの割り込みレベルがIRQで表記されている場合は、下表でINT表記との関係を確認してください。

INT 表記	INT 0	INT 1	INT 2	INT 3	INT41	INT42	INT 5	INT 6
IRQ 表記	IRQ 3	IRQ 5	IRQ 6	IRQ 9	IRQ10	IRQ11	IRQ12	IRQ13

付52 ハードウェア仕様

転送モード	Ultra DMA/33モード0~2 (最大転送速度33.3MB/sec:理論値) Multi Word DMAモード0~2 (最大転送速度16.6MB/sec:理論値) PIOモード0~4 (最大転送速度16.6MB/sec:理論値)
インターフェイス	ATA-3対応
IRQ (割り込み)	PCIシステムによる自動設定
I/Oアドレス	PCIシステムによる自動設定
BIOSアドレス	PCIシステムによる自動設定
使用温度範囲	+5 ~ +35
使用電源電圧	+5V ± 5%
消費電流 (最大)	0.8A
サイズ	140(L) X 121(W)mm (金具含む)

サポートセンターへのお問い合わせ

弊社サポートセンターへのお問い合わせはユーザー登録された方に限ります。

お知らせいただく事項

1. お客様の住所・氏名・郵便番号・連絡先の電話番号及びFAX番号
2. ご使用の弊社製品名と、サポートソフトウェアディスクのシリアルNo。
(フロッピーディスクに貼ったVerシールに印刷されています。)
3. ご使用のパソコン本体と周辺機器の型番。
4. ご使用のOSとアプリケーションの名称、バージョン及びメーカー名。
5. 現在の状態(どのようなときに、どうなり、今はどうなっているか。画面の状態やエラーメッセージなどの内容)。

オンライン (パソコン通信)

インターネット

<http://www.iodata.co.jp/>

「サポートセンターお問い合わせ」内のフォームを
使用してE-mailをお送りください。

NIFTY-SERVE アイ・オー・データステーション(SIODATA) サポート会議室

郵便

〒920-8512 石川県金沢市桜田町24街区1
住所 株式会社アイ・オー・データ機器
サポートセンター「UIDE-98シリーズ」係 宛

電話

電話番号 本社 076-260-3366
東京 03-3254-0301
受付時間 9:30～12:00 13:00～17:00
月～金曜日(祝祭日を除く)

FAX

FAX番号 本社 076-260-3360
東京 03-3254-9055
宛先 株式会社アイ・オー・データ機器
サポートセンター「UIDE-98シリーズ」係 宛

本製品に関するお問い合わせはサポートセンターのみで行っています。
予めご了承ください。

サポートソフトのバージョンアップ

入手方法は以下の通りです。なお、当サービスはユーザー登録された方のみが対象です。

オンライン（パソコン通信）

インターネット <http://www.iodata.co.jp/> 「サブ・トライブ・リ」
NIFTY-SERVE アイ・オー・データステーション(SIODATA)のライブラリ6(LIB 6)

バージョンアップ窓口からの郵送

下記の窓口までお問い合わせください。（送料及び手数料はお客様負担）

住所 〒920-8512 石川県金沢市桜田町24街区1
株式会社アイ・オー・データ機器
「UIDE-98シリーズ」バージョンアップ係 宛
電話番号 076-263-7070
受付時間 9:30～12:00 13:00～17:00 月～金曜日（祝祭日を除く）

ご注意

パソコン通信によるダウンロードはお客様の責任のもとで行ってください。
添付ソフトウェアの中には、当サービス対象外のソフトウェアもあります。
このサービスへのご質問は、弊社サポートセンターやバージョンアップ窓口ではお受けできません。

修理について

弊社製品の修理については、以下の事項をご確認のうえ、販売店もしくは弊社サポートセンターへご依頼ください。

原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。また、修理品のデータに関しましては保証いたしかねます。

修理品にはご使用の環境や現在の状態（『サポートセンターへのお問い合わせ』の「お知らせいただく事項」）をお書き添えください。

保証期間中は無償で修理いたします。ただし、次の場合は有償となります。

保証書がない場合

保証書の所定事項が未記入の場合

電源ONで挿入、抜去、逆挿入など誤った操作方法や、お買い上げ後の輸送、落下、取り付け場所の移設による破損、故障の場合

落雷などの事故による破損の場合

本製品を改造した場合

保証期間後は有償で修理いたします。

製品によっては主要部品がユニット化（一体化）されている場合があります。これらの製品で故障が主要部品におよんでいた場合、各ユニットの交換を実費で行います。

修理品送付先

〒920-8513 石川県金沢市桜田町15街区7 アイ・オー・データ第2ビル
住所 株式会社アイ・オー・データ機器
「UIDE-98シリーズ」 修理係 宛

修理品を送付される場合は、輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材を使用してください。また、紛失等のトラブルを避けるため、**宅配便**または**書留郵便小包**でのご送付をお願いいたします。

修理品納期問い合わせ窓口

電話番号 金沢 076-260-3663
受付時間 9:30～12:00 13:00～17:00
月～金曜日（祝祭日を除く）

申し込まれた修理品の納期をお知りになりたい場合は、こちらまでお問い合わせください。

UIDE-98シリーズ

取扱説明書

1999.Mar.23 33283-01

発行 株式会社アイ・オー・データ機器

〒920-8512 石川県金沢市桜田町24街区1

© 1998-1999 I-O DATA DEVICE, INC. All rights reserved.

本製品及び本書は著作権法により保護されておりますので
無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。

ここにVerシールをお貼りください。

Verシール